

今後の中学校給食に関する方針(案)

令和4年●月

枚方市教育委員会

— 目次 —

はじめに	1
1. 枚方市の中学校給食の現状と課題について	□
1-1. 枚方市の中学校給食の現状	□
(1) 中学校給食実施にあたっての検討経過	
(2) 枚方市の中学校給食の特長	
(3) 喫食率の推移	
(4) 喫食率向上の取り組み	
1-2. 枚方市の中学校給食の課題	□
2. 今後の中学生にふさわしい給食についての基本的な考え方	□
2-1. これまでの検討経過	□
(1) 枚方市中学校給食あり方懇話会	
(2) 児童・生徒・保護者へのアンケート調査	
(3) 懇話会で検討した以外の社会情勢の変化	
(4) 今後の中学校給食に関する方針(素案)へのパブリックコメント	
(5) 児童・生徒・保護者・市民からの意見聴取後の対応	
2-2. 今後の中学生にふさわしい給食についての基本的な考え方 ..	□
2-3. 学校給食がもたらす効果	□
3. 給食の提供方式等	□
(1) 提供方式	
(2) 食材・献立	
(3) 食物アレルギー対応	
(4) 調理	
(5) 配膳	
(6) 給食費	
4. 実施に向けた取り組み	□
(1) 安全安心	
(2) 栄養・健康	

- (3) 食育の推進
- (4) 学校における対応
- (5) 経済的に困難を抱える家庭に対する支援

5. 調理場の整備等□

5-1. 給食センター等の整備

- (1) センター方式での整備
- (2) 給食センターの整備手法
- (3) 中学校の配膳室等の改修

5-2. 給食センター等の整備に必要な事業費の概算

5-3. その他の検討課題

6. 今後の予定□

〈資料〉

- ・大阪府内の中学校給食実施状況
- ・都道府県別学校給食実施状況
- ・中学校給食に関するアンケート調査結果の概要
- ・「今後の中学校給食に関する方針(素案)」についてのパブリックコメント(結果公表)
- ・学校給食調理場の種別比較
- ・今後の中学校給食に関する方針(案)〈概要版〉
- ・中学校の給食に係る自治体の時間割(例)

■はじめに

学校給食法(昭和29年法律第160号)では、第1条にその目的として、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、もつて学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ること」を規定しており、第4条では、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない」と規定されています。

また、食育基本法(平成17年法律第63号)の前文では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』が重要である」としています。

枚方市では、長らく中学校の昼食は家庭で用意してもらった弁当を持参することを基本としてきました。その後、平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきました。

一方、枚方市の選択制の中学校給食のスタートから6年以上が経過する中、「ランチボックス方式では個々の食事の量の調整が難しい」「調理委託等の受託者が限られてきている」などといった課題がでてきたことに加え、大阪府内でも、選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体が相次ぎ、令和4年8月現在、府内43市町村のうち全員給食の実施または移行決定があわせて37市町村となるなど、中学校給食を取り巻く社会情勢が大きく変化している状況にあります(別添資料参照)。

このような社会情勢の変化を踏まえ、教育委員会として、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方をあらためて検討することとし、令和3年10月に有識者・PTA・学校関係者で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を設置し、同年11月から令和4年3月まで5回にわたり、幅広く意見を聴取しました。

また、令和4年7月には、市立小中学校の児童・生徒及びその保護者を対象に、「中学校給食に関するアンケート調査」を実施しました。

これらに加え、令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による影響や、令和4年2月からのロシアによるウクライナ侵略の影響等による原油価格高騰等に起因する食材料費の価格上昇等に対応する持続可能な給食のあり方についてもあわせて検討してきました。

これらの検討結果等を踏まえ、大前提となる安全安心な学校給食の提供を継承しつつ、中学校給食の全員給食に向けた「今後の中学校給食に関する方針」を策定するものです。

1. 枚方市の中学校給食の現状と課題について

1-1. 枚方市の中学校給食の現状

枚方市では、長らく中学校の昼食は家庭で用意してもらった弁当を持参することを基本としてきました。その後、平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきました。

(1) 中学校給食実施(平成28年4月～)にあたっての検討経過

平成23年2月 中学校給食に関する小・中学生へのアンケート調査

6月 大阪府中学校給食導入促進事業(補助制度)創設

7月 枚方市中学校給食検討委員会(庁内委員会)設置

11月 実施手法を3つに絞り込んで検討

- ・全員喫食の共同調理場方式
- ・選択制の共同調理場(ランチボックス)方式
- ・選択制の民間調理場活用(ランチボックス)方式

平成24年1月 中学校給食に関する市民アンケート調査

2月 市民アンケートなどにおいて全員喫食を望む意見も多くみられたが、3つの実施手法から「選択制の共同調理場(ランチボックス)方式」を選定

<選定のポイント>

- ・食育や学校運営など5つの重点項目の比較検討で「対応でき特に課題がない」項目が最も多く、かつ「対応できるが大きな課題がある」項目が最も少ないもの
- ・将来的な財政負担を可能な限り抑制する観点からランニングコストが低額となるもの
- ・アンケート結果から児童・生徒・市民の意見を最も広く反映できるもの
- ・中学生の昼食の視点から給食や家庭からの弁当などを選ぶことができるもの

3月 大阪府へ選択制の共同調理場方式とした中学校給食導入実施計画書を提出

平成25年3月 中学校給食の実施手法等に関する方針を策定

平成26年～ 共同調理場・配膳室等施設整備開始

平成27年6月 枚方市学校給食会に中学校給食委員会を設置

9月 全中学校での配膳室整備完了

11月 第一学校給食共同調理場竣工

平成28年4月 全市立中学校で選択制・ランチボックス方式の給食スタート

(2) 枚方市の中学校給食の特長

- ・枚方市が整備した共同調理場で、毎日、当日調理
- ・温かい料理は温かい状態で、冷たい料理は冷たい状態で提供
- ・保温性の高いマグカップで汁物を提供
- ・基本食と7大アレルギーを使用しないアレルギー対応食の二種類を毎日提供
- ・小学校給食と同様に枚方市学校給食会が選定した食材を使用
- ・給食を喫食するか、家庭から弁当などを持参するか、選択ができる

(3) 喫食率の推移

●喫食率(全体)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全 体	24.3%	31.6%	32.7%	33.4%	33.8%	35.1%	34.9%

※令和4年度は1学期のみ

●喫食率(学年別)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1年生	32.9%	35.8%	30.3%	34.8%	33.1%	35.4%	37.3%
2年生	24.8%	33.0%	35.2%	30.8%	34.9%	34.1%	34.4%
3年生	15.6%	26.2%	32.6%	34.1%	29.9%	35.8%	33.1%

※令和4年度は1学期のみ

●喫食率(学校別)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
第一中学校	34.4%	50.3%	54.3%	52.3%	53.5%	53.4%	53.2%
第二中学校	30.6%	37.0%	37.3%	42.3%	47.9%	48.7%	48.9%
第三中学校	29.9%	36.7%	36.1%	35.7%	30.0%	30.9%	31.8%
第四中学校	24.7%	33.0%	34.5%	38.6%	40.4%	37.7%	34.8%
津田中学校	23.2%	26.9%	27.7%	24.5%	21.6%	22.5%	21.0%
枚方中学校	27.6%	35.9%	47.1%	41.6%	41.2%	37.5%	41.0%
中宮中学校	19.7%	33.7%	31.5%	36.1%	36.3%	37.9%	38.7%
招提中学校	24.8%	33.2%	35.2%	43.1%	38.9%	42.3%	38.4%
楠葉中学校	23.5%	33.5%	32.5%	37.7%	38.5%	44.4%	45.6%
楠葉西中学校	23.9%	33.5%	33.9%	43.5%	40.0%	42.4%	41.1%
東香里中学校	30.1%	36.6%	35.1%	33.4%	31.9%	36.1%	33.8%
長尾中学校	13.9%	16.7%	14.8%	20.8%	24.8%	24.8%	24.1%
杉中学校	18.1%	22.9%	22.2%	20.8%	22.5%	24.2%	23.8%
山田中学校	27.1%	33.4%	27.5%	29.8%	27.8%	29.3%	28.5%
渚西中学校	37.7%	48.6%	50.4%	48.9%	50.5%	45.5%	44.3%
桜丘中学校	20.3%	24.8%	30.0%	24.1%	27.1%	26.1%	23.3%
蹊跼中学校	21.4%	28.6%	30.2%	30.9%	32.2%	36.6%	37.5%
招提北中学校	24.6%	29.6%	35.3%	30.5%	31.5%	28.5%	31.1%
長尾西中学校	21.5%	21.4%	23.5%	19.1%	24.8%	29.5%	32.9%

※令和4年度は1学期のみ

喫食率の全体では、平成28年度の提供開始時は約24%でしたが、現在は約35%となっています。

学年別では、1・2年生の喫食率が高い傾向にあるものの、令和3年度では3年生が最も高い喫食率となっています。

学校別では、学校ごとに喫食率が異なり、令和4年度では50%を超える学校が1校、40%を超える学校が5校、30%を超える学校が8校、30%未満の学校が5校となっています。

この要因として、喫食率の高い学校では、家庭科の教員が中心となって、全生徒に対して学校給食コンテストへの参加を呼び掛けた結果、全生徒が応募するなど、学校全体で給食に関心を持つような取り組みが実施されています。喫食率の学校ごとの差異の要因については、今後、中学校の全員給食の準備を進めていく中で分析し、必要に応じて、中学校の全員給食の実施に向けた取り組みに活かしていく必要があります。

(4) 喫食率向上の取り組み

中学校給食導入実施計画書作成時に設定した喫食率50%を目標に、1ー1.(2)枚方市の中学校給食の特長をPRするとともに、喫食率向上に向け様々な取り組みを行っています。

<魅力の向上としての主な取り組み>

- ・フルカラー献立表の全生徒・教職員への配付
- ・全国の郷土料理や世界各国の料理を献立に採り入れて提供
- ・ごはんの量の選択が可能
- ・給食献立コンテストの実施

<利便性の向上としての主な取り組み>

- ・インターネット予約

- ・給食費のコンビニ・クレジットカード・自動口座振替による決済が可能
- ・自動予約の web 申請
- ・枚方市ホームページのトップページに中学校給食予約サイトのリンク掲載

<PR・情報発信の主な取り組み>

- ・小学校6年生を対象とした中学校給食試食会や入学説明会における中学校給食説明の実施
- ・給食だよりの発行
- ・給食 PR 動画(DVD)の制作
- ・学校・PTA との連携強化

1-2. 枚方市の中学校給食の課題

平成28年度からランチボックス方式による選択制給食を実施しつつ、喫食率50%を目指した給食の魅力・利便性向上の取り組みを進めてきました。しかし、中学校給食に関するアンケートによれば、現在の中学校給食の良くない点として「ほかに給食を食べている生徒がいない」「みんなで給食の準備をしないので面倒」などといった理由で給食を選択しない生徒が多く存在し、令和4年7月現在、喫食率は約35%で推移しており、依然として学校給食法第1条の目的を実現することが難しい状況となっています。

また、大阪府内において、ランチボックス方式から食缶方式に見直す方向性を打ち出している自治体が増えており、ランチボックス方式の需要の減少に伴い、什器・保温カートなどのコスト上昇、受託業者が限られてくるなどといった持続可能性に課題がでてきている状況です。

こうしたことから、現行の選択制給食の安全安心な提供を継続させながら、並行して、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方を検討する必要があると判断しました。

2. 今後の中学生にふさわしい給食についての基本的な考え方

2-1. これまでの検討経過

(1) 枚方市中学校給食あり方懇話会

1-2に記載した課題意識の下、中学校給食の持続可能なあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方をあらためて検討することとし、令和3年11月から有識者に加え、PTA・小中学校の校長・栄養教諭のそれぞれの代表の合計9人で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を計5回開催し、幅広く意見を聴取しました。

<各会議における主なテーマと聴取した意見>

【第1回会議】

●枚方市の学校給食の現況

市立小学校の食缶方式での全員給食、市立中学校のランチボックス方式での選択制給食、それぞれの現況を確認しました。

(主な意見)

- ・栄養が考えられている中学校給食の献立が広く保護者に伝わるようにするべきだ
- ・昼食を食べていない生徒がいると聞いているので全員給食が求められる

●枚方市のこれまでの学校給食に関するアンケート

平成23年2月の児童生徒対象のアンケートでは「中学校の昼食は家で作る弁当がよい」という回答が児童58%、生徒51%、「中学校の給食は学校給食がよい」という回答が児童19%、生徒18%などの結果がみられ、平成24年1月の市民対象のアンケートでは「全員給食が望ましい」という回答が59%、そのうち中学生以下の子どもがいる保護者は71%に上る結果となったこと、平成28年10月の中学校1年生対象のアンケートでは「継続的に給食を食べている」生徒は25%という結果、平成31年3月の中学校1・2年生のアンケートでは「継続的に給食を食べている」生徒は36%という結果などについて、意見が出されました。

(主な意見)

- ・成長期にある中学生にとって1日3食のうちの1食である昼ごはんをどうしていくかは重要

- ・買った昼食だと食事内容にも親の目が行き届かなくなるので全員給食が求められる

【第2回会議】

●中学生の時期に必要な食事

厚生労働省及び文部科学省の資料から、中学生が不足している栄養素や過剰となっている栄養素、学校給食によって摂取状況が充足される栄養素、学校給食に期待される「望ましい栄養量の摂取」「子どもの食生活全体の改善」などの考察を行い、それらに関する意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・学校給食が果たす役割として栄養面はもちろん日常の食生活・食習慣においても重要
- ・成長期に適切な栄養素摂取ができていない栄養についてアプローチできているのが学校給食

●枚方市の食育などの取り組み

枚方市の献立づくりについて、栄養面だけでなく季節感や旬、日本・世界の料理を取り入れるなどに取り組んでいること、食育に関する生徒アンケートなどを掲載した「食育だより」などの取り組みについて、意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・中学生期は食生活の自立に向けた大切な時期なので給食の果たす役割は大きい
- ・選択制の給食では食育の推進が限定的となっている
- ・全員給食であれば給食を活用した食育、学校教育としての食育を進めていくことが可能
- ・選択制だから食育指導が難しいというが、全員に配布した献立表の活用などが可能ではないか

●提供方式

ランチボックス方式と食缶方式、選択制と全員給食などの比較検証から意見が出されました。

(主な意見)

- ・食べ残しや個々の食べる量の問題、器の形状など食育の理由から食缶方式が望ましい
- ・義務教育の間は最低必要な栄養所要量が摂取できるようにしていくために全員給食が望まれる
- ・食缶方式の方が量など個に応じた対応ができる
- ・コロナ禍での衛生面や感染防止、個別に用意されているランチボックスが取り扱いやすいと思う
- ・ランチボックスは取りに行くだけで配膳時間が少なくて済むのでよい
- ・選択制、全員給食いずれでも給食があれば教職員の昼休憩がなくなるといった負担がある

●中学校給食の望ましい方向性

各委員のそれぞれの立場からの意見をお聴きしました。

(主な意見)

- ・子どもたちの食育や栄養面を考えたときに生徒皆が一緒の全員給食が望ましい
- ・義務教育の子どもたちを責任をもって育てていくことを考えると全員給食を望む
- ・全員給食は望ましいが学校現場における課題等は多くある
- ・栄養面で給食に勝るものはなく平等性の観点からも全員給食がよい
- ・全員給食で小学校同様の食缶方式がよい
- ・中学生の心身の育成、栄養面の確保、学校が担うべき食育の観点から全員給食が望ましい
- ・持続可能な食育推進、成長期の中学生を誰一人残さず健全に育成していくため全員給食が必要
- ・食缶方式での配膳時間を考えると現在の中学校での時間割で実施するのは課題が多い
- ・現時点では選択制のランチボックス方式を継続する方がよい

【第3回会議】

●調理施設・配膳室等

センター方式・自校方式・親子方式・民間調理場など調理施設の種別比較、中学校の配膳室の状況などを資料として、それらに関する意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・食育などの見地から子どもたちに最も近い自校方式がよい
- ・自校方式がよいが経費などの面で難しいのであればセンター方式の調理場が望ましい
- ・調理場は民間ではなく市が整備した第一共同調理場との組み合わせがよい
- ・民間調理場は市外の離れたところにあると栄養教諭などがなかなか見に行くことができない
- ・配膳室は生徒が急増した場合の整備や学校規模により位置や大きさの検討が必要

●給食時間

枚方市立中学校では給食時間の設定がないことから「他市の中学校の給食時間」「小学校の給食時間」を例示して、意見を求めました。

(主な意見)

- ・全員給食・食缶方式で実施している自治体が多いことを考えると枚方市でもできると思う
- ・子どもたちは小学校で経験しているので中学校になってもそのまま継続できると思う
- ・学校運営の立場から全員給食であってもランチボックス方式の方がスムーズ
- ・学校現場に「給食にかかる職員の増員」「昼休みの時間をはじめとする時間割等の変更」「食物アレルギー対応」など課題は多い
- ・全員給食の食缶方式となると給食に係る人の増員や時間割の変更などが必要
- ・学校現場における課題の具体的な抽出が必要

●給食献立

中学校給食の「旬の食材を使う」「行事食」「日本の郷土料理・世界の料理を取り入れる」などの献立について、意見を求めました。

(主な意見)

- ・ランチボックス方式は再加熱し保温時間も長いいため色合いや味ができ上がりと異なる
- ・給食献立表や給食だよりをみて家庭でも食文化を知ることができる
- ・テーマに沿った献立の取り組みは全員に学ぶチャンスとして生かしていないのがもったいない
- ・生徒に自分の置かれている環境や格差に悩ませないためにも同じ献立の全員給食が必要

【第4回会議】

●今後の課題の抽出

各委員のそれぞれの立場から意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・小中学校の連携で全員給食を前提としたカリキュラム編成、食育の指導全体計画の作成が必要
- ・フードロス削減に向け現在のランチボックス方式を改めて量の調整ができるようにする
- ・新たな給食センターの設置にあたっての実現可能性や費用対効果、効率性等
- ・中学校のPTA 給食委員も小学校同様に19校すべてに委員がいた方がよいと思った
- ・学校現場は現実問題として施設面などの課題が山積している状況

●市民等からの意見募集等

アンケート調査について意見を求めました。

(主な意見)

- ・中学校給食の意義、目的、期待される効果を伝えたくてアンケート調査を実施するのがよい
- ・給食内容・提供方式は小学校の実施方法を継続するという前提でアンケートをするのがよい
- ・児童生徒は嗜好の部分が大きく給食の必要性や給食費など客観的な判断ができないと思う
- ・過去のアンケート結果をみてもらって給食に関心を持ってもらったうえで意見募集すればよい

【第5回会議】

●市民等からの意見募集等

アンケート調査の内容やパブリックコメントのそれぞれの手法を示し、第4回会議に続いて意見を求めました。

(主な意見)

- ・小学校保護者に「中学校全員給食実施の賛否」「実施の場合の気になる点」を聞いてはどうか
- ・子どものアンケートでは小学校6年生に「中学校給食に期待すること」を聞いてはどうか
- ・市民への意見募集は実施するべきで、結果を保護者・生徒にみてもらいたい

●実施手法の比較

センター方式における現状とランチボックス方式での全員給食への移行、センター方式での食缶方式・PFI 活用、センター方式での民間調理場活用について比較検討資料を示し、意見を求めました。

(主な意見)

- ・献立も施設に見合ったものとしていくには栄養士や調理員とも相談が必要なので時間が必要
- ・膨大な費用がかかる中でも90%近くの自治体全員給食を実施している

- ・全員給食実施までに何年か必要になるのでその期間を準備期間と考えてもよいのではないか
- ・実際に行うのは学校現場なので課題の抽出を調査して解決していくことが大切

●中学校生活への影響

「給食時間」「教職員の対応」「食物アレルギー対応」「給食費の徴収方法」「教育としての位置づけ」などの課題について、意見を求めました。

(主な意見)

- ・様々な課題について学校現場の状況を第一に考えていく必要がある
- ・全員給食の学校現場における課題について現場の教員の意見を聞くことが必要
- ・アレルギー対応については全員給食となれば組織として対応していかなければならない
- ・給食費は「未納だから食べてはいけない」ということは教育上好ましくない
- ・中学校給食も全員給食となったら小学校のような徴収方法ができるのか検討が必要
- ・全員給食となれば週1回でも食育の教材としての給食をモデルとして示してもらえたらと思う
- ・給食の時間ではなく食育の時間としてカリキュラム変更できれば実施しやすいのではないか

●大阪府内の中学校給食の実施状況

令和4年3月現在で、大阪府内43市町村のうち全員給食は33市町村、選択制は10市、選択制10市のうち全員給食への移行が決定している市が3市(令和4年8月現在では4市)、全員給食についての検討中が本市含め3市との状況、また、全員給食33市町村のうち26市町村が食缶方式、3市が食缶・ランチボックス方式の併用、ランチボックス方式4市町のうち1市が食缶方式への変更が決定している状況(別添資料参照)を報告し、意見を求めました。

(主な意見)

- ・全員給食は食缶方式が多く採用されていることが分かる
- ・食缶方式は経費面と食育の観点から優位性があり効率もよいと考える
- ・SDGsの観点から継続的に実施していく必要があるので食缶方式の市を参考にすべきである
- ・全員給食となれば他市でどのような工夫がなされているのか調査して課題解決に生かせればよい

枚方市中学校給食あり方懇話会全5回の会議で検証した資料などをもとに各委員が意見を述べられています。

また、平成25年3月に枚方市教育委員会が現行のランチボックス方式・選択制給食導入の考え方を示した「中学校給食の実施手法等に関する方針」策定時から比べると、大阪府内でも選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体が相次ぐ中、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方について、各委員にはそれぞれの立場から様々な意見をいただきました。

その中でも、とくに成長期である中学生に必要となる「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見が多く示されました。また、実施にあたっては、「食缶方式」による「全員給食」で調理場は「センター方式」が望ましいという意見が多く出されました。

(2) 児童・生徒・保護者へのアンケート調査

平成28年4月から選択制の中学校給食を実施して6年が経過する中、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、児童・生徒・保護者を対象に「中学校給食に関するアンケート」調査を実施しました(別添資料参照)。

- ・調査期間…令和4年7月8日(金)～同7月21日(木)
- ・対象者…市立中学校全生徒(10,119人)及び市立小学校3年生から6年生(13,406人)の児童とそれぞれの保護者
- ・調査方法…保護者へ配付した「アンケートのお知らせ」に記載したQRコードまたはURLから回答
- ・回答数…中学校 保護者 1,673人(回収率16.5%)・生徒 955人(回収率9.4%)
小学校 保護者 3,732人(回収率27.8%)・児童 3,632人(回収率27.1%)

【調査結果】(抜粋)

●給食の良い点について

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
仕事で弁当の用意が難しいので助かる	62.0%	61.9%
家庭での献立づくりの負担が軽減される	62.6%	65.3%
栄養のバランスがとれる	75.1%	85.4%
好き嫌いを直すきっかけになる	19.6%	31.3%
子どもの荷物が減る	48.3%	56.9%
家庭で食べることがないメニューがある	52.8%	64.5%
食への関心や知識を得られる	16.9%	21.1%
安くて経済的	27.6%	28.9%
良い点はない	0.2%	1.4%
その他	3.5%	3.4%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成24年1月市民アンケート	
おいしかった	18.9%
家庭での弁当づくりの負担が軽減された	20.2%
健康・体力づくりにつながった	13.9%
好き嫌いを直すきっかけになった	12.5%
みんなで同じものを食べる楽しみ	24.0%
食への関心や知識を得られた	6.5%
良い点はなかった	1.6%
その他	2.4%

●給食の良い点について

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
おいしいと思う	41.7%	66.7%
家庭での献立づくりの負担が軽減される	73.6%	36.2%
栄養のバランスがとれる	56.7%	64.8%
食への関心や知識を得られる	12.1%	21.9%
好き嫌いを直すきっかけになる	11.2%	24.9%
家庭で食べることがないメニューがある	36.6%	57.4%
荷物が減る	61.6%	35.0%
安くて経済的	28.7%	—
みんなが同じものを食べることができる	—	34.3%
良い点はない	3.6%	1.4%
その他	6.3%	3.4%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
給食の方が好き	10.1%	7.0%
親の手間が省ける	23.5%	25.4%
栄養のバランスがとれる	17.7%	20.9%
好き嫌いを直せる	3.8%	2.8%
みんなが同じものを食べられる	4.6%	7.8%
家で食べられないものが食べられる	8.1%	8.3%
安くて経済的	8.4%	8.9%
弁当を作ってもらえない	0.6%	0.6%
弁当だと荷物になる	20.3%	15.2%
学校で弁当を食べたくない	1.2%	1.2%
その他	1.7%	1.9%

(参考)平成31年3月生徒アンケート	
中学生に必要な栄養のバランスがとれる	21.1%
毎日色々なメニューを食べられる	15.6%
温かいメニューがそろっている	18.5%
普段食べられないメニューがそろっている	6.8%
国産食材など安心して食べることができる	3.7%
みんなで同じものを食べるのが楽しい	1.3%
弁当作りの負担が軽くなる	20.0%
安くて経済的	5.3%
良いと思うところがない	6.3%
その他	1.2%

●給食の良くない点について

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
子どもが給食を嫌がる	77.4%	25.8%
家でつくった弁当の方がよい	27.3%	5.9%
パンなどを購入する方がよい	1.9%	0.5%
献立に変化がない	1.6%	4.0%
子どもが嫌いな食べ物が多い	13.4%	11.3%
量が多い	13.9%	6.0%
量が少ない	2.3%	13.0%
給食費が高い	10.3%	14.3%
良くない点はない	4.8%	38.0%
その他	5.5%	12.0%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成24年1月市民アンケート	
おいしくなかった	17.3%
嫌いなものを食べなければならない	32.0%
給食当番をしなければならない	10.2%
量が多かった	5.6%
量が少なかった	6.7%
家でつくった弁当の方がよい	6.7%
良くない点はなかった	18.0%
その他	3.5%

●給食の良くない点について

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
おいしくないと思う	40.9%	6.7%
家でつくった弁当の方がよい	69.8%	16.9%
パンなどを購入する方がよい	8.8%	
気に入ったメニューがない	23.8%	7.5%
嫌いな食べ物が出てくる	36.3%	36.8%
量が多い・量が少ない	40.5%	—
昼の時間がなくなる	18.3%	7.6%
給食費が高い	7.3%	—
食べ残しができないように思う	—	11.7%
小学校でもうあきた	—	6.7%
給食当番がいや	—	26.1%
良くない点はない	13.1%	41.4%
その他	8.2%	2.3%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
給食はまずい	9.4%	4.3%
嫌いな食べ物が出てくる	13.2%	15.0%
献立に変化がない	4.6%	5.7%
給食当番がいや	20.3%	18.5%
量が不足	6.0%	5.5%
昼の時間がなくなる	10.8%	8.6%
残さず食べなければならない	7.3%	7.8%
弁当の方がよい	16.9%	23.3%
給食はもうあきた	9.4%	9.1%
その他	2.1%	2.2%

(参考)平成31年3月生徒アンケート	
食べたくない、食べられないものが入っている	22.5%
家庭からもってくる弁当の方が好き	46.9%
コンビニの弁当やパンの方が好き	10.1%
毎月の申し込みが面倒	5.8%
毎月の申し込みの締め切りを忘れる	2.9%
値段が高い	4.6%
その他	6.6%

●中学校における昼食について【保護者】

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
全員を対象とした給食が望ましい	58.3%	71.8%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	39.1%	26.1%
その他	2.6%	2.1%

(参考)平成24年1月市民アンケート	
全員を対象とした給食が望ましい	59.4%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	23.2%
弁当やパン等を持参するのが望ましい	13.1%
その他	4.3%

●中学校における昼食について【児童生徒】

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
全員を対象とした給食が望ましい	13.3%	45.8%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	82.8%	54.2%
その他	3.9%	0%

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
家で作る弁当がよい	51.4%	58.2%
学校給食がよい	17.6%	18.5%
お店で買った弁当・パン等がよい	21.1%	15.5%
弁当屋さんが届けてくれるのがよい	8.3%	6.3%
その他	1.6%	1.5%

保護者では、全員給食を望む回答が中学校で約58%、小学校で約72%、選択制を望む回答が中学校で約39%、小学校で約26%となっています。このほか多くの保護者から「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答がされています。

中学校生徒では選択制を望む回答が約83%、全員給食を望む回答は約13%、小学校児童では選択制を望む回答が約54%、全員給食を望む回答が約46%となっています。

●質問1と質問4のクロス集計

(質問1)中学校給食を選択していますか

(質問4)中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問1 \ 質問4	回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択している	保護者	54.6%	44.1%	1.3%
	生徒	17.9%	76.1%	6.0%
② 給食は選択していたが今は選択していない	保護者	64.8%	31.2%	4.0%
	生徒	8.5%	88.1%	3.4%
③ 弁当やパンを持参	保護者	61.6%	34.6%	3.8%
	生徒	6.8%	92.9%	0.3%
④ その他	保護者	50.0%	50.0%	0%
	生徒	0%	100%	0%

いずれの選択肢でも、保護者については「全員給食を望む」という意見が最も多くなっています。

生徒では、給食の選択の有無に関わらず、「選択制の給食を望む」という意見が非常に多い結果となりました。

このほかのクロス集計においても、小学校・中学校とも保護者については「全員給食を望む」という意見が最も多くなっており、児童・生徒では「選択制の給食を望む」という回答が多い結果となっています。

(3) 懇話会で検討した以外の社会情勢の変化(新型コロナウイルス感染症等による原油価格高騰等への対応)

令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による影響や、令和4年2月からのロシアによるウクライナ侵略の影響等による原油価格高騰等に対応し、保護者負担となる給食費を引き上げることなく安定的で持続可能な給食提供を継続するため、国の臨時交付金を活用して、給食の食材料の価格上昇分の負担軽減に向けた補助事業を、令和4年度に創設しました。この事業を継続させていくため、国等に補助制度の要望活動を行っています。

こうした取り組みは、現在の選択制給食のもとでは、給食を選択していない生徒や家庭を支援する仕組みとはなっていません。また、それぞれの家庭における家計負担は増加することが予測される中、全体として食事の量や栄養面に不安が生じることも危惧されます。成長著しい時期の中学生の発達を鑑みると、こうした影響に左右されないように中学校全員給食にすることが望ましいと考えます。

また、災害時には、学校給食調理場が機能しておれば、家庭や避難先で十分な食事が摂れない状況となっても、学校給食が栄養確保のバックアップの役割を果たすことが可能です。

なお、このような取り組みを進めていくうえで、給食費について公会計化を行うことで、より弾力的かつ機動的に対応可能になるものと考えます。

(4) 今後の中学校給食に関する方針(素案)へのパブリックコメント

令和4年8月に作成した「今後の中学校給食に関する方針(素案)」への市民からの意見募集としてパブリックコメントを実施しました(別添資料参照)。

- ・意見募集期間…令和4年9月1日(木)～同9月20日(火)
- ・意見提出者数…126人(ウェブ123人、意見提出用紙2人、メール1人)
- ・公表意見数 …328件

※意見提出時に複数の意見を記入されている場合は、意見ごとに1件としています。

【結果公表】(抜粋)

・今後の中学校給食の提供方式について

意見提出者126人のうち、中学校給食の全員給食に賛成という意見提出者は92人、選択制給食を希望するという意見提出者は11人でした。また、提供方式に関する意見件数をみると食缶方式を希望する意見が53件、ランチボックス方式を希望する意見は15件という結果でした。

これらの意見に関して、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方について、意見聴取会からの意見やアンケート調査の結果を踏まえ、食材料費の価格上昇等に対応する持続可能な給食のあり方についてもあわせて検討し、中学校給食の食缶方式による全員給食、新たな給食センターの整備に向けた「今後の中学校給食に関する方針」の策定に取り組んでいるところであることを、市の考え方として公表します。

●このほかの意見の概要

・全員給食が良いと思う理由

「成長期に栄養バランスのとれた給食は大切」「選択制は周りに利用している人がなく頼みたくても頼みにくい」「弁当作りは家庭の負担が大きい」など、94件の意見が寄せられています。

・選択制給食が良いと思う理由

「給食には給食の良さ、お弁当にはお弁当の良さがある」「家庭ごとの都合もあると思う」など、16件の意見がありました。

・全員給食の導入について

「早期実施」を求める意見をはじめ、9件の意見が出されています。

- ・ランチボックスが良いと思う理由
「衛生面で良い」「子どもの配膳の負担が軽減される」など、15件の意見がありました。
 - ・食缶方式が良いと思う理由
「個々に応じた分量で提供できる」「小学校と同じとなるので安心」「小学校の給食が楽しみだったように給食が楽しみになる」など、53件の意見が寄せられています。
 - ・学校給食全般について
「温かい冷たいがはっきり分かれていることでおいしく食べることができる」「牛乳をメニューから外せないか」など、15件の意見がありました。
 - ・現行の中学校給食の課題等
「汁や味、匂いが他のおかずに移りおいしくない」「量の調整ができない」「安全な食材を使ってほしい」など、41件の意見がありました。
 - ・学校における課題等
「給食の時間の確保が必要」「安全確保のため人的支援が必要」など、13件の意見が出されています。
 - ・その他
「給食費を公費負担にしてほしい」「アレルギー対応について」などの意見がありました。
- パブリックコメントとして寄せられたご意見については、各意見に関する市の考え方とともに、市の公式ホームページで結果公表します。

(5)児童・生徒・保護者・市民からの意見聴取後の対応

上記(3)の趣旨を盛り込んだ(4)のパブリックコメントでは、中学校全員給食の導入について多くの賛成意見があったことから、(2)のアンケートで回答した児童生徒の意見を受け止め、以下のような取り組みをさらに進めていく必要があると考えています。

●アンケートに回答した生徒へのアプローチ

(2)のアンケート結果から、子どもたちの「選択制がよい」というアンケート結果(中学校では約83%の生徒が選択制を望んでいる)を受け止め、対応していくためにも、教育委員会事務局が様々な調整を行い、どういった給食が望まれるのか、また、とくに中学校においては栄養・食育の大切さや学校給食が果たす役割について、子どもたちの理解が深まるよう、次のように今後取り組んでいきます。

①問題解決型学習として、市内中学校、もしくは、公募による中学生のプロジェクトチームで、様々な課題に取り組む中、中学校の全員給食についても取り扱い、(仮)テーマ「なぜ、全員給食？中学校給食をみんなが大好きになる方法を探れ！」を設定し、中学生自身が探求、市内小中学校への発信、フィードバックの取りまとめまでを行います。教育委員会事務局は、事務局内に民間企業と連携したワーキングチームを立ち上げ、本プロジェクトを下支えします

本プロジェクトに取り組むことで、中学生には、自分たちの考えが「本物」になることの喜びと「本物」にするための難しさを体感させることができ、自分と社会との繋がりを意識し、教育委員会事務局としては、中学生という若い視点からのアイデアを施策に取り入れることができ、施策の幅を広げることに繋がります。

②中学校では、栄養・食育の大切さや学校給食が果たす役割について説明するとともに、「望ましい中学校給食」「現行の中学校給食の改善点」などのテーマ設定のもと、食缶方式・ランチボックス方式それぞれの調理場視察、出身小学校での給食再体験、他市事例の研究などを通じて、SDGsの視点も採り入れながら、生徒自らが考えるグループ研究のプログラムを順次設定していきます。

③小学校では、引き続き、学校給食が栄養・健康面で果たす役割や食生活の基礎づくり、体力向上につながるなどを学ぶことができるよう「食育」を推進していきます。

④上記のほか、市内大学等と連携した学校給食における食育の推進を検討します。

2-2. 今後の中学生にふさわしい給食についての基本的な考え方

2-1の検討経過を踏まえると、枚方市中学校給食あり方懇話会では、とくに「栄養・健康」「教育・食育」の重要性がクローズアップされました。また、アンケート調査では、多くの保護者から「全員給食が望ましい」「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答がありました。こうしたことから、今後、生徒一人ひとりの健康・成長を支え、将来にわたって「食」への関心や理解を深めるための取り組みを進めていくことが求められています。学校給食実施基準の一部改正について(通知・文部科学省 令和3年2月12日)では、学校給食に期待できることが挙げられており、懇話会からの意見と同じく、これからの中学校給食のあり方、中学生にとってふさわしい給食のあり方の方向性を示すものと考えています。

【望ましい栄養量の摂取ができる】

学校給食実施基準(学校給食法第8条)の学校給食摂取基準に基づいた献立により、家庭での食事で不足していると推測される栄養素を、学校給食により補い、生徒に必要な栄養量を摂取できる。

【多様な食にふれることができる】

穀類、野菜類、豆類、果実類、きのこ類、藻類、魚介類、肉類、卵類、乳類等を組み合わせ、調理方法の改善を図るとともに、児童生徒の嗜好の偏りをなくすよう配慮し、家庭における食生活の指標となる。

【食に関する重要な教材となる】

食に関する指導を効果的に進めるため、給食を「生きた教材」として活用することにより、日本の食生活の実践、伝統的な食文化の継承、児童生徒の日常又は将来の食事作りにつなげることができる。

【望ましい食習慣の形成につながる】

食器などを安全性が確保され、料理形態に即したものとすることで、児童生徒の望ましい食習慣の形成、食文化の継承等につなげることができる。

【食に関する実践力が身につく】

給食の準備から片付けまでの活動を通して、計画的・継続的な指導と適切な給食時間を確保することにより、児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力が身につく。

【児童生徒の食生活の改善につながる】

望ましい栄養バランスについて、児童生徒への食に関する指導のみならず、家庭への情報発信を行うことにより、食生活全体の改善が期待できる。

これら学校給食に期待できるすべての事項が、成長期であり食生活の基本が形成される年齢期の中学生にとってふさわしい給食のあり方だと考えられます。

とりわけ、枚方市中学校給食あり方懇話会の委員からは「給食だけでなく昼食自体を食べていない子どもがいる」「コロナ禍による貧困はなかなか見えてこないが、中学生の食に大きな影響が及んでいることが懸念される」などといった指摘があり、アンケート調査の結果から、1日3食食べていない生徒の中に給食を食べていない生徒が多数ではないものの存在することが分かりました。枚方市の中学校の生徒がだれ一人取り残されることなく、1日1食でも栄養バランスのとれた食の確保ができる環境づくりが必要と考えています。

2-1の検討経過を踏まえ、本市が取り組んできた選択制給食について総括すると、本市では、選択制給食を実施しつつ、その選択する生徒を増加させることにより、学校給食法の目的の実現をめざして取り組みを進めてきましたが、現在の選択制の給食では、生徒の喫食率が現在約 35%で推移しており、学校給食法の目的を実現することが難しい状況となっています。

選択制の中学校給食は、給食や弁当などを選択できることから、弁当を望んでいる生徒にも給食を望んでいる生徒にも全てのニーズに対応することができました。また、保温カートの活用により、季節を問わず温かい給食を提供することなどが選択制給食の成果として挙げられます。

しかしながら、食材料費を除く調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、学校給食法に基づき、市が負担していますが、生徒の喫食率が向上しない状況を踏まえれば、教育の機会均等や行政サービスの公平性の観点から、このまま選択制の給食を継続することは不相当であり、すべての生徒が給食を喫食できる環境整備が必要だと考えます。

こうしたことから、すべての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、すべての生徒の健全な成長を支えていくために、大前提となる安全安心な給食の提供を継承しつつ、コロナ禍などの影響があったとしても、持続的に給食を提供可能な体制に整えた上で、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

2-3. 学校給食がもたらす効果

学校給食がもたらす具体的な効果については、大学の研究成果など様々な機関からの報告がなされています。

●学校給食の有無による栄養素摂取状況

小学3・5年生、中学2年生の給食のある一日の栄養摂取状況に比較して、給食のない場合の一日の摂取状況は、いずれも男女ともに、カリウム、カルシウム、ビタミン類、食物繊維が少ない。学齢が上がるに伴ってその傾向が強く出ており、食塩や脂質が過剰傾向にある結果もみられる。

※児童生徒の食事状況調査(厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「食事摂取基準を用いた食生活改善に資するエビデンスの構築に関する研究」)より

●学校給食が「肥満」を減らす

学校給食が思春期の子どもに及ぼす影響を調査。県レベルでの中学校給食の実施率が10%増加すると、翌年の過体重の男子の割合は0.37%、肥満の男子の割合は0.23%低下している。女子では、過体重・肥満を減らす傾向はみられたものの、統計学的に有意な結果は得られていない。しかし、思春期の肥満を集団として減らすという観点で、中学校給食実施が効果的であることを示している。

※東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学研究グループの研究調査より

●学校給食の有無別にみた中学生の栄養摂取状況

タンパク質性食品の摂取では、給食がない場合は給食がある場合に比べて、昼食での豆類や魚介類の摂取量が男女とも少なくなる。野菜の摂取では、給食がない場合は給食がある場合に比べて、昼食での緑黄色野菜など野菜の摂取量が男女とも少なくなるなどの報告。

※大阪樟蔭女子大学論集第46号 学校給食の有無別にみた中学生の栄養摂取状況 - 大阪府内某中学校調査から - より

●学校給食が野菜の摂取格差を縮める

家庭の社会経済状況による野菜・果物の摂取量の格差は、学校給食によって、野菜摂取量で9.9%、果物摂取量で3.4%の格差が是正されているという研究結果。

※東京大学大学院健康教育・社会学分野研究グループの研究調査より

3. 給食の提供方式等

(1) 提供方式

2-2の「中学生にとってふさわしい給食」の実現に向け、また、食べ残しや個々の食べる量の問題、器の形状や生徒同士の協力などといった食育の観点からも、調理場で調理した給食を、小学校と同様に、保温容器(食缶)に入れて各中学校に配送し、生徒が各々の食器に配膳する食缶方式を採用します。

ランチボックス方式と食缶方式のコスト比較につきましては、ごはん・おかず・汁物の食器1セットでは、ランチボックス方式が約4000円で、食缶方式 約2800円の約1.4倍、配送に使用するカート1台あたりでは、ランチボックス方式が約120~130万円で、食缶方式 約40万円の約3倍となっています。

	ランチボックス方式(a)	食缶方式(b)	比較(a/b)
食器セット(1セット)	約4,000円	約2,800円	約1.4倍
カート	約120~130万円	約40万円	約3倍

このほか、ランチボックス方式では、おかず等を一人分ずつ食器に入れる作業や再加熱の必要があることなどから、調理にあたる従業者の人数は食缶方式の約1.7倍、調理に要する時間につきましても食缶方式より2~3時間程度長く必要であり、人件費・光熱水費もランチボックス方式がコスト高となっています。

(2) 食材・献立

安全安心な食材を確保するため、教育委員会の責任のもと枚方市学校給食会が主導して、安全性や品質を確認したうえで、選定・購入し、定期的に確認を行います。また、成長期に見合う栄養バランスのとれた、主菜・副食・牛乳からなる完全給食の献立を枚方市学校給食会が主導して作成します。なお、公会計導入後には、教育委員会事務局が責任をもって選定・購入・確認を行います。

(3) 食物アレルギー対応

学校給食における食物アレルギー対応指針に則り、食物アレルギーに対応した専用区画などの施設整備、学校・教育委員会・調理場などが連携した体制づくりを進めていきます。

(4) 調理

令和4年度から令和10年度までの市立中学校の生徒・教員の推計数などから提供食数を12,000食/日と想定しており、衛生管理が徹底された安全安心で、かつ、安定的・継続的に提供できる調理方式としてセンター方式を採用したいと考えています。給食センターの整備手法・用地等については、今後、庁内委員会等において検討を進め、実施計画等を策定します。

(5) 配膳

配膳室を現行のまま使用が可能な学校はありますが、拡充や改修が必要となる学校の配膳室については、給食センターの整備計画とあわせて検討します。また、配膳員の配置については、現行と同様の内容で中学校給食の調理配送配膳等業務の委託を行う予定です。

(6) 給食費

学校給食法に基づき、食材料費は保護者負担とし、当面は現行の給食費1食330円を維持できるように取り組んでいきます。

食材料費のほかの調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、これまで同様に市が負担します。また、食材料費の高騰に対応し、給食費を引き上げることなく安定的な給食提供を継続するため、国の交付金の活用ができるよう、引き続き、国等へ補助制度の要望活動を行います。

なお、給食費を公会計化とすることで、新型コロナウイルスを含む災害時には、臨時的に保護者が負担する給食費の徴収が困難な状況の中でも、持続的に学校給食の提供が可能となります。

公会計化については、大幅な業務体制の変更や新たな専門部署の設置、小・中学校ごとの会計システムの導入、それぞれの予算化などの課題があることから、今後、先行導入されている自治体の事例研究などに取り組みながら、各課題を検討していきます。

■給食費の公会計化について

令和元年(2019年)の文部科学省「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」では、小中学校の教員の業務負担の軽減のため、給食費を地方公共団体の会計に組み入れる「公会計制度」を採用するとともに、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことが適切であると示されています。

4. 実施に向けた取り組み

(1) 安全安心

給食センターは、改修・整備、運営のどの段階においても、学校給食衛生管理基準(文部科学省)、大量調理施設衛生管理マニュアル(厚生労働省)、食品の安全を確保するための世界基準・衛生管理の規格HACCP、枚方市学校給食衛生管理マニュアル(枚方市)、調理業務等作業基準(枚方市)に基づき徹底した衛生管理を行うものとします。また、新たな整備においては、ドライシステムの導入、衛生管理の区画の明確化などを必須とし、運営においては、安全安心な食材料の確保、衛生管理体制の構築、給食センターと学校との連絡体制の確立など、安全安心の取り組みを必須とします。また、学校給食における食物アレルギー対応指針(文部科学省)に則り、食物アレルギーに対応した専用区画などの整備、学校・教育委員会・調理場などが連携した体制づくりを進めていきます。

(2) 栄養・健康

成長期に見合う栄養バランスのとれた、健康面にも配慮した主菜・副食・牛乳からなる生徒にふさわしい完全給食の献立を栄養教諭や教育委員会の管理栄養士を中心に枚方市学校給食会が主導して作成します。調理段階においても、時間管理や適温提供、食材を活かした彩りや食感がおいしく感じられる工夫など、生徒が楽しい給食時間を迎えることができる取り組みを進めます。また、新たなメニューづくりにも検討を進めていきます。

(3) 食育の推進

中学校の全員給食が実現すると、すべての生徒が同じメニューの給食を喫食するというメリットを生かした食育に取り組むことが可能となります。このため、食の指導については、保健体育における望ましい生活習慣の育成、技術・家庭における食生活に関する指導、特別活動における給食の時間を中心とした指導などを相互に関連させながら、学校教育活動全体として効果的に取り組む体制づくりを行います。

教育委員会事務局関係各課と学校の連携のもと、栄養教諭が中心となりつつ、枚方市学校給食会のネットワークを活用した取り組みを進めるとともに、SDGsの観点からの食に関する学校の学びを好事例として横展開していくなど、食育の充実に向け、できることから取り組みを進めます。

(4) 学校における対応

給食にかかる職員の配置、日課の変更(給食の時間の設定)、食物アレルギー対応、配膳室の容量、給食費の徴収、食育の対応、保護者等への周知・説明など、各課題の解消に向け、全員給食実施までのスケジュールにおいて、先行導入校も活用して、検証を行いながら、教育委員会と学校間で十分な連絡調整を行います。

■学校現場における課題

「子どもたちにとっても教諭にとっても昼休みの時間がない」「配膳室のスペースが不足している」など、学校における様々な課題については、配膳室調査を含め、教育委員会事務局が各学校を訪問する中で、現場の意見を十分聞きながら、課題の解決に向けた調整を行っていきます。その際、必要に応じて他市の事例の紹介(別添資料参照)など必要となる校外視察などの調整についても行います。

(5) 経済的に困難を抱える家庭に対する支援

すべての生徒が給食を喫食できるよう、就学援助・生活保護等の受給が決定した家庭には、引き続き、各種制度から給食費が支給されるものとしします。

5. 調理場の整備等

5-1. 給食センター等の整備

(1) センター方式での整備

高度な衛生管理体制のもと、最大12,000食/日の調理が可能で、安全安心な給食が安定的・継続的に提供できるよう調理場の整備にあたってはセンター方式を採用したいと考えています。

具体的には、現行の給食センター・第一学校給食共同調理場では調理能力最大6,000食/日の食缶方式への一部改修を行うとともに、新たに6,000食/日の調理が可能な給食センターを整備する必要があります。

■センター方式の採用について

枚方市中学校給食あり方懇話会において、自校式もしくはセンター方式が望ましいとされたことを受け、調理場の種別ごとに比較検討(別添資料参照)を行いました。その結果、次の理由により、実施方式はセンター方式を採用することとしたものです。

- ・集中的な衛生管理及び高度な衛生管理体制が期待できる
- ・自校方式の調理場より整備期間・コストを大幅に圧縮できる
- ・厨房機器などの設備を充実させることができる
- ・一括納品が可能で食材ロスの削減につながる
- ・市内または近隣立地のため調理後の配送に時間がかからずリスクが低い
- ・突発的な対応や変更が可能
- ・防災機能の導入が可能
- ・市が食材選定・献立立案を主導的にできる

(2) 給食センターの整備手法

第一学校給食共同調理場の一部改修に加え、新たな給食センターを整備することで、安全安心な給食が安定的・継続的に提供できる体制を構築します。

国が平成27年に策定した「多様な PPP/PFI 手法導入を最優先的に検討するための指針」において、人口20万人以上の地方公共団体では10億円以上の公共施設の整備または年間維持管理費が概ね1億円以上の事業においては PPP/PFI 手法導入を優先的に検討することとされています。

そうしたことから新たな給食センターの整備手法としては、公民連携による PPP/PFI 手法導入を優先的に検討することとします。PFI 手法を導入した場合には、施設整備費の平準化が図られ、センター開設後の給食提供が15~20年継続できることが担保されるものと想定しています。

令和4年11月までに庁内委員会等で第1次検討、第2次検討を重ねた結果、令和4~5年度には第3次検討として PFI 事業の可能性調査(外部コンサルタント活用)を実施したいと考えており、その後、財源確保等を含めた給食センター等整備の実行計画を改訂していきます。

(3) 中学校の配膳室等の改修

上記(1)、(2)により、給食センターを整備することに併せて、全員給食とするための中学校の配膳室等の改修が必要となることから、令和7年度の先行導入校、令和8年度の全校実施に向けて、改修スケジュールの整理や必要な予算の確保を上記(2)の実行計画の改訂に盛り込んでいきます。

5-2. 給食センター等の整備に必要な事業費の概算

●事業費の概算(令和4年10月時点)

上記5-1.(2)給食センターの整備手法を踏まえた必要な事業費の概算

① イニシャルコスト…約27億円(PFIにかかる割賦償還分含む)

可能性調査等委託、第一共調設計工事、配膳室設計工事、新共同調理場整備、備品購入等

② 全員給食実施後のランニングコスト…約7.2億円/年

調理配送等委託、炊飯委託、光熱水費、施設維持管理等

※(現行の選択制ランチボックス方式)…約3.5億円/年

また、事業費については、PFI事業の可能性調査の中でさらに精査し、実行計画の改訂に盛り込んでいきます。

なお、給食費の公会計化に必要な検討は、必要経費も含めて、別途検討することとします。

5-3. その他の検討課題

5-1.5-2のほか、次のような課題についても、検討し調整をしていきます。

・第一学校給食共同調理場の一部改修の工事期間の選択制給食の代替措置の検討

・全員給食の実施に伴い必要となる学校との調整(保護者説明等含む)

6. 今後の予定

本方針策定時点での年次スケジュールです。

令和4年度(2022年度)	11月 PPP/PFI手法の検討 実行計画等の作成 今後の中学校給食に関する方針(案)作成 12月 PFI事業の可能性調査に係る補正予算案の提出(12月議会) 今後の中学校給食に関する方針策定 1月～ 配膳室調査・各学校調整開始 PFI事業の可能性調査の実施
---------------	--

令和5年度(2023年度)	【PFI 事業】 PFI事業の可能性調査の実施 9月 アドバイザー委託補正予算案の提出(9月議会) 10月 アドバイザー委託事業者選定審議会	【中学校・第一学校給食共同調理場】 配膳室調査・各学校調整 (第一学校給食共同調理場設計委託) 11月 第一学校給食共同調理場調理配送等委託(R6.8～)
令和6年度(2024年度)	5月 事業者選定 6月 調理場設計・建設	6月 配膳室設計委託 (第一学校給食共同調理場改修工事)
令和7年度(2025年度)	12月 開設準備	配膳室改修工事 開設準備 8月 先行導入校で全員給食実施
令和8年度(2026年度)	中学校全員給食の実施	

※可能性調査の結果により、事業手法や事業費等が変更となることがあります。

第5表

都道府県別 校給食実施状況（公立中 校数）

平成30年5月1日現在

都道府県名	総数	完全給食		補食給食		ミルク給食		計	
		学校数	百分比	学校数	百分比	学校数	百分比	学校数	百分比
1 北海道	576	561	97.4	4	0.7	6	1.0	571	99.1
2 青森県	156	146	93.6	1	0.6	9	5.8	156	100.0
3 岩手県	159	135	84.9	7	4.4	17	10.7	159	100.0
4 宮城県	200	194	97.0	4	2.0	1	0.5	199	99.5
5 秋田県	113	112	99.1	-	-	-	-	112	99.1
6 山形県	98	93	94.9	4	4.1	-	-	97	99.0
7 福島県	219	219	100.0	-	-	-	-	219	100.0
8 茨城県	211	208	98.6	3	1.4	-	-	211	100.0
9 栃木県	156	151	96.8	-	-	-	-	151	96.8
10 群馬県	161	159	98.8	-	-	-	-	159	98.8
11 埼玉県	414	412	99.5	-	-	1	0.2	413	99.8
12 千葉県	377	377	100.0	-	-	-	-	377	100.0
13 東京都	611	607	99.3	-	-	2	0.3	609	99.7
14 神奈川県	411	183	44.5	-	-	79	19.2	262	63.7
15 新潟県	227	225	99.1	-	-	1	0.4	226	99.6
16 富山県	80	79	98.8	-	-	-	-	79	98.8
17 石川県	84	82	97.6	-	-	1	1.2	83	98.8
18 福井県	75	72	96.0	3	4.0	-	-	75	100.0
19 山梨県	81	79	97.5	-	-	-	-	79	97.5
20 長野県	187	182	97.3	-	-	2	1.1	184	98.4
21 岐阜県	178	177	99.4	-	-	-	-	177	99.4
22 静岡県	263	258	98.1	1	0.4	3	1.1	262	99.6
23 愛知県	419	416	99.3	-	-	-	-	416	99.3
24 三重県	153	143	93.5	-	-	3	2.0	146	95.4
25 滋賀県	98	64	65.3	1	1.0	4	4.1	69	70.4
26 京都府	163	123	75.5	-	-	1	0.6	124	76.1
27 大阪府	458	426	93.0	3	0.7	-	-	429	93.7
28 兵庫県	343	298	86.9	1	0.3	8	2.3	307	89.5
29 奈良県	103	100	97.1	-	-	1	1.0	101	98.1
30 和歌山県	120	110	91.7	-	-	-	-	110	91.7
31 鳥取県	56	54	96.4	-	-	-	-	54	96.4
32 島根県	96	94	97.9	-	-	-	-	94	97.9
33 岡山県	154	149	96.8	-	-	3	1.9	152	98.7
34 広島県	232	205	88.4	5	2.2	21	9.1	231	99.6
35 山口県	146	145	99.3	-	-	-	-	145	99.3
36 徳島県	82	81	98.8	-	-	-	-	81	98.8
37 香川県	67	66	98.5	-	-	-	-	66	98.5
38 愛媛県	128	126	98.4	-	-	-	-	126	98.4
39 高知県	105	81	77.1	-	-	14	13.3	95	90.5
40 福岡県	337	319	94.7	-	-	18	5.3	337	100.0
41 佐賀県	85	62	72.9	2	2.4	20	23.5	84	98.8
42 長崎県	171	163	95.3	-	-	7	4.1	170	99.4
43 熊本県	163	158	96.9	-	-	-	-	158	96.9
44 大分県	124	122	98.4	-	-	2	1.6	124	100.0
45 宮崎県	128	124	96.9	-	-	-	-	124	96.9
46 鹿児島県	219	217	99.1	-	-	-	-	217	99.1
47 沖縄県	149	145	97.3	-	-	-	-	145	97.3
計	9,336	8,702	93.2	39	0.4	224	2.4	8,965	96.0

第6表

都道府県別学校給食実施状況（公立中学校生徒数）

平成30年5月1日現在

都道府県名	総数	完全給食		補食給食		ミルク給食		計	
		生徒数	百分比	生徒数	百分比	生徒数	百分比	生徒数	百分比
1 北海道	122,758	121,995	99.4	339	0.3	251	0.2	122,585	99.9
2 青森県	31,182	29,684	95.2	60	0.2	1,199	3.8	30,943	99.2
3 岩手県	31,061	24,464	78.8	662	2.1	5,852	18.8	30,978	99.7
4 宮城県	57,513	56,384	98.0	586	1.0	302	0.5	57,272	99.6
5 秋田県	22,593	22,442	99.3	-	-	-	-	22,442	99.3
6 山形県	28,011	26,663	95.2	1,233	4.4	-	-	27,896	99.6
7 福島県	48,473	47,853	98.7	-	-	-	-	47,853	98.7
8 茨城県	71,164	70,341	98.8	542	0.8	-	-	70,883	99.6
9 栃木県	51,245	49,919	97.4	-	-	-	-	49,919	97.4
10 群馬県	51,112	50,599	99.0	-	-	-	-	50,599	99.0
11 埼玉県	177,291	176,230	99.4	-	-	221	0.1	176,451	99.5
12 千葉県	147,785	146,692	99.3	-	-	-	-	146,692	99.3
13 東京都	223,216	198,326	88.8	-	-	63	0.0	198,389	88.9
14 神奈川県	199,792	65,960	33.0	-	-	30,867	15.4	96,827	48.5
15 新潟県	53,610	53,126	99.1	-	-	12	0.0	53,138	99.1
16 富山県	27,117	27,007	99.6	-	-	-	-	27,007	99.6
17 石川県	29,941	29,470	98.4	-	-	348	1.2	29,818	99.6
18 福井県	20,919	18,800	89.9	2,073	9.9	-	-	20,873	99.8
19 山梨県	20,580	20,339	98.8	-	-	-	-	20,339	98.8
20 長野県	54,723	53,725	98.2	-	-	470	0.9	54,195	99.0
21 岐阜県	54,214	53,894	99.4	-	-	-	-	53,894	99.4
22 静岡県	92,935	90,088	96.9	312	0.3	1,061	1.1	91,461	98.4
23 愛知県	196,080	170,932	87.2	-	-	23,905	12.2	194,837	99.4
24 三重県	45,889	32,626	71.1	-	-	1,639	3.6	34,265	74.7
25 滋賀県	38,952	21,378	54.9	278	0.7	885	2.3	22,541	57.9
26 京都府	56,980	21,464	37.7	-	-	114	0.2	21,578	37.9
27 大阪府	203,501	162,219	79.7	287	0.1	-	-	162,506	79.9
28 兵庫県	132,577	80,232	60.5	36	0.0	4,268	3.2	84,536	63.8
29 奈良県	31,903	30,752	96.4	-	-	199	0.6	30,951	97.0
30 和歌山県	21,776	14,334	65.8	-	-	-	-	14,334	65.8
31 鳥取県	14,346	14,282	99.6	-	-	-	-	14,282	99.6
32 島根県	16,910	16,847	99.6	-	-	-	-	16,847	99.6
33 岡山県	48,374	46,966	97.1	-	-	932	1.9	47,898	99.0
34 広島県	66,534	38,919	58.5	595	0.9	4,732	7.1	44,246	66.5
35 山口県	32,591	32,292	99.1	-	-	-	-	32,292	99.1
36 徳島県	17,684	17,605	99.6	-	-	-	-	17,605	99.6
37 香川県	24,775	24,658	99.5	-	-	-	-	24,658	99.5
38 愛媛県	32,543	32,443	99.7	-	-	-	-	32,443	99.7
39 高知県	13,886	7,608	54.8	-	-	1,115	8.0	8,723	62.8
40 福岡県	126,285	116,336	92.1	-	-	7,864	6.2	124,200	98.3
41 佐賀県	21,495	12,119	56.4	445	2.1	8,708	40.5	21,272	99.0
42 長崎県	34,204	30,599	89.5	-	-	2,505	7.3	33,104	96.8
43 熊本県	46,335	45,502	98.2	-	-	-	-	45,502	98.2
44 大分県	28,144	27,615	98.1	-	-	351	1.2	27,966	99.4
45 宮崎県	27,786	27,228	98.0	-	-	-	-	27,228	98.0
46 鹿児島県	42,879	42,465	99.0	-	-	-	-	42,465	99.0
47 沖縄県	45,471	44,943	98.8	-	-	-	-	44,943	98.8
計	2,985,135	2,546,365	85.3	7,448	0.2	97,863	3.3	2,651,676	88.8

中学校給食に関するアンケート調査結果の概要

令和4年(2022年)8月 枚方市教育委員会

1. 調査概要

調査趣旨	平成28年4月に選択制の中学校給食の提供を開始し、6年が経過した中で、生徒にとって相応しい中学校給食の今後のあり方について検討を進めるうえでの参考とするため
調査期間	令和4年7月8日(金)～7月21日(木)
対象者	市立小学校3年生から6年生及び市立中学校全生徒とそれぞれの保護者
調査方法	保護者へ「アンケートのお知らせ」を配付し、そのお知らせに添付のQRコードまたはURLから保護者及び児童生徒が回答する
回収率	中学校 保護者 1,673人(回収率:16.5%) / 生徒 955人(回収率:9.4%) 小学校 保護者 3,732人(回収率:27.8%) / 児童 3,632人(回収率:27.1%)

※保護者の回収率:1人の子どもに対し1人の保護者が回答したとして積算

2. 調査結果

(A) 中学生の保護者及び生徒に対するアンケート結果について

1. 給食の選択について

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①給食を選択している(選択しようと思う)	51.1%
②給食を選択していたが今は選択していない	7.5%
③弁当やパンなどを持参させている	41.2%
④その他	0.2%

※その他の回答内容

・給食とお弁当とを併用している ・夏場のみ給食を選択している など

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①給食を選択している	58.5%
②給食を選択していたが今は選択していない	6.2%
③弁当やパンなどを持参している	34.7%
④その他	0.6%

※その他の回答内容

・給食を選択するときもあるし弁当の時もある ・月によって変えている など

上記の結果より、保護者は「給食を選択している(選択しようと思う)」が51.1%、中学校生徒は「給食を選択している」が58.5%となっており、本アンケートに回答した保護者及び中学校生徒の約半数が現在中学校給食を選択していると考えられ、回答項目②の回答率から、給食を食べたことのある場合は、継続的に給食を申し込んでいることが多いことがわかりました。また、その他の回答では、「お弁当が傷みやすい夏場は給食にしている」、「月により、弁当か給食かを選択している」という意見が多くみられました。

2. 給食を選択している理由または給食の良いところについて (質問1で①を選択した場合に回答)

※ 複数回答あり

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①仕事で弁当の用意が難しいので助かる	62.0%
②家庭での献立づくりの負担が軽減される	62.6%
③栄養のバランスがとれる	75.1%
④好き嫌いを直すきっかけになる	19.6%
⑤子どもの荷物が減る	48.3%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	52.8%
⑦食への関心や知識を得られる	16.9%
⑧安くて経済的	27.6%
⑨良い点はない	0.2%
⑩その他	3.5%

※その他の回答内容

- ・夏場は食中毒の心配がない
- ・夏場は冷たく冬場は温かいものが食べられる
- ・美味しいと子供が言うので
- ・栄養面がよい
- ・就学援助を受けているため

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①おいしいと思う	41.7%
②家庭での弁当づくりの負担が軽減される	73.6%
③栄養のバランスがとれる	56.7%
④食への関心や知識を得られる	12.1%
⑤好き嫌いを直すきっかけになる	11.2%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	36.6%
⑦弁当をもっていかななくてよい(荷物が減る)	61.6%
⑧安くて経済的	28.7%
⑨よい点はない	3.6%
⑩その他	6.3%

※その他の回答内容

- ・弁当は冷たいけど、給食は温かい
- ・兄弟が弁当だから
- ・親が選んだから
- ・親が大変だから
- ・お母さんが楽になる
- ・外国の料理がたまに出る
- ・温かいご飯が食べられる
- ・中学校の間でしか食べられないから
- ・おいしいから など

「給食を選択している理由または給食の良いところ」として、保護者は「栄養バランスが取れる」が75.1%と最も多く、次いで、「家庭での献立づくりの負担が軽減される(62.6%)」「仕事で弁当の用意が難しいので助かる(62.0%)」、中学校生徒は「家庭での弁当づくりの負担が軽減される」が73.6%で最も多く、次いで、「荷物が減る(61.6%)」や「栄養バランスが取れる(56.7%)」という結果となりました。

この結果から、保護者では、栄養バランスを考えた献立づくりや仕事もある中での弁当作りが大変だと感じており、中学校生徒では、親の負担軽減として給食を選択している傾向がみられました。

3. 中学校給食を選択していない理由または給食の良くないところについて（質問1で②③を選択した場合に回答）

※複数回答あり

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①子どもが給食を嫌がる	77.4%
②家で作った弁当の方がよい	27.3%
③パンなどを購入する方がよい	1.9%
④献立に変化がない	1.6%
⑤子どもが嫌いな食べ物が多い	13.4%
⑥量が多い	13.9%
⑦量が少ない	2.3%
⑧給食費が高い	10.3%
⑨良くない点はない	4.8%
⑩その他	5.5%

※その他の回答内容

- ・小学校と同様の配膳形式にしてほしかった
- ・小学校の給食の方が美味しい
- ・子どもがお弁当がいいと言うから
- ・給食の子が少ないので嫌がる
- ・給食を取りに行くのが手間
- ・他の家族の弁当を作っているから
- ・体育の後、給食を取りに行き教室に戻ったら、食べる時間がない。
- ・予約方法が限定的、難しい
- ・美味しくない、牛乳が嫌い
- ・量が調節できない
- ・ランチボックスのため、おかずの味が混ざって美味しくない

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①おいしくないと思う	40.9%
②家で作った弁当の方がよい	69.8%
③パンなどを購入する方がよい	8.8%
④気に入ったメニューがない	23.8%
⑤嫌いな食べ物が出てくる	36.3%
⑥量が多い・量が少ない	40.5%
⑦昼の時間がなくなる	18.3%
⑧給食費が高い	7.3%
⑨良くない点はない	13.1%
⑩その他	8.2%

※その他の回答内容

- ・家族みんなお弁当だから
- ・自分は給食がいいのに、お母さんがお弁当を作る
- ・自分で好きなものを選べる方がよいから
- ・ほかに給食を食べる生徒がいない
- ・美味しいと思うが見た目が美味しなさそうだし箱の色が食欲失せる
- ・配膳室までとりにいくのが面倒くさい
- ・みんなで給食の準備をしないので面倒
- ・とても熱くて食べられない
- ・匂いが独特
- ・同じランチボックスの中で隣のおかずに味がついてしまっている

「給食を選択していない理由または給食のよくないところ」として、保護者は「子どもが給食を嫌がる」が77.4%と最も多く、中学校生徒では「家で作った弁当の方がよい」が69.8%、次いで、「おいしくないと思う(40.9%)」「量が多い・量が少ない(40.5%)」という結果となりました。

4. 中学校における昼食について

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①全員を対象とした給食が望ましい(全員給食)	58.3%
②現行どおり給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい(選択制給食)	39.1%
③その他	2.6%

※その他の回答内容

- ・配膳形式で全員を対象にしてほしい
- ・選択できるのが一番だが、給食なら学校で作る給食にして欲しい
- ・一括で給食にしてほしいが給食に使える時間の配慮が必要
- ・全員対象にすれば給食費用も今よりも安くなるのではないかと思う
- ・小学校で給食だったのでほんとは抵抗ないはずですが、中学は作りたてではなく保温されて柔らかくなりすぎたものになっていると子どもが感じているので、そこを改善されれば全員給食でもいい
- ・給食費自己負担が軽減されるなら、全員給食が望ましい
- ・時代、風潮に合わせます
- ・どちらでもいい

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①全員を対象とした給食が望ましい(全員給食)	13.3%
②現行どおり給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい(選択制給食)	82.8%
③その他	3.9%

※その他の回答内容

- ・小学校の方が断然美味しかった
- ・一人一人の好みでいいと思う
- ・小学校と同じ給食内容がいい
- ・全員お弁当がいい
- ・選択制でいいが小学校と同じメニュー

中学校における昼食として、保護者は「全員給食が望ましい」と半数以上の58.3%が回答しており、その他の回答においては、小学校給食と同様の方式での給食を望む意見や中学校での給食時間の配慮を求める意見もみられました。また、中学校生徒では、82.8%が「現行通りの選択制給食」と回答しており、保護者の意向とは異なる結果となりました。

4-(1). 全員給食が望ましい理由について (質問4で①を選択した場合に回答)

【中学校生徒の保護者】

主な意見
全員が給食だと子供が嫌がることなく、栄養面がしっかり考えられていて傷む心配をしなくてもいいから。
他県では中学生が給食なのは普通のこと。大阪は遅れてる。他の子が好きなものばかりのお弁当を食べているのを羨ましがるのが困る。

主な意見
選択できるようになっているので子供の希望でお弁当になってしまう。せっかく給食センターを建設してもらったのに、給食使用率をあげるためにも特別な理由がある場合以外は給食の一択で良いと思う。
全員給食になっていれば、弁当を作る負担がなくなるから
予約の必要がなく栄養面も安心できる
給食、持参のそれぞれにメリット・デメリットがあると思うので、給食に統一すれば全生徒同じ条件になる。食器類の片付け(食べたらず片付ける)なども教育のひとつになると思う。
個別にすると子供のわがままにつながる。 嫌いな物も食べないと成長するにつれて望ましくない
選択制だと子供が給食を選びたがらない。 ロコミで美味しくないなど、言われているせいか、小学生の時から、試食をしたこともないのに、中学のお弁当給食は絶対嫌だと言っていた。 (小学校の給食は好きだった。) 家で作るお弁当は好きなものを入れがちで、おかずもいつも似たようなものになりがち。栄養面で考えても、偏りがちになりやすいし、作る負担が大きいので、希望としては、全員を対象とした小学校のような給食を希望する。
母数が多い方がコスト面でも質があがりそう。また、ランチボックスを所定の場所へ個別に取りに行き、戻しに行くのに時間をとられ、昼食が十分に食べる時間が短いとのこと、皆同じスタートで食事がとれた方がいいかなとも考える。
義務教育であれば食育として全員給食にすべきだと思う
小学校6年間の給食では問題ないのであるから、そのまま延長して欲しい。量が不足する場合は各自持参して調整し、年齢に応じた栄養源を個人差の無いように提供することで、心と身体のバランスがとれたより良い教育が行えると考えます。 また、給食センターの拡張等費用は掛かると思うが、地産地消、市内雇用拡大に繋がり地域の発展になる。
成長期に毎日栄養バランスのとれた昼食は作れないので
色々感謝がうまれるから。
隣接した市は、全員給食が当たり前で普通になっているから。
嫌いな食べ物にも続けて挑戦することで、苦手ではなくなると思う。みんながいれば、何とか頑張ろうと思うので。 温かい食事が出るのがいい!お弁当だと食中毒が心配。
全員の方が諦めがつく。嫌だと思っても、食べてみたら変わると思し、同じものを食べて会話をする大切さがあると思う。先生方の業務も軽減される。それが学校生活を過ごすという事においていい環境だと思うから。
お昼ご飯を食べてない子がいたり、菓子パンだけだったりの子がいるらしく、他人の子供ではあるが、成長期の子供に栄養バランスがとれない食事はどうなのか?と思う。
選択肢があるから親への負担が増える。 子供も周りに給食の人がいないと食べたくないという。 決めてくれていた方が子供への説得の負担も減るしみんな同じという安心感も子供に与えられる。
全員がきちんと栄養を摂取できる環境。小学校のように自動引き落して、みんなが同じ給食を食べれる環境が好ましい。
家庭環境により、十分な食事が持参できない方もいるため。
他の市は全員なのに、なぜ枚方は選択制なのかわからない

【中学校生徒】

主な意見
みんなで同じ物を食べている方がいい。家庭間の格差がない。
家の人がお弁当をつくるのが大変だから
本当は給食を食べたいから。
みんな平等だから。
みんな同じがいい
栄養がたくさん取れるし、好き嫌いを直すきっかけとなるため
小学校の給食の方が美味しいから
ご飯だけでなくおかずのおかわりができる
お弁当の人が持ってくるものを忘れた時に食べるものがないということにはならなくなるし、給食の方が温かいものを食べられるから。
美味しいかわからなくて、なかなか給食にできないから
みんなで同じものを食べると楽しいから
みんなで一緒に食べたい
統一感が増えてみんなとの仲が深まるから。
全員で当番を回すため、負担が減るから。

4-(2). 選択制が望ましい理由について

(質問4で②を選択した場合に回答)

【中学校生徒の保護者】

主な意見
量の調整が出来、好きな物も入れてあげられる
それぞれの家庭の事情によって選べたら有り難い
生徒一人ひとり食べる量も違うし、給食が嫌だと言う子もいる
お弁当を作ってあげたい、お弁当も親子のコミュニケーションの1つ
給食費が高い
好き嫌いのある子に給食を食べさせて残したりしたら給食を作ってくださっている方たちに申し訳ないと思うから。
小学校給食に比べて、美味しくない子どもから聞いている
好きなものを食べることで気持ちがりフレッシュできると思う
給食を選択している身としては、もっと給食の人数が増えて一人当たりの負担金額が減るとありがたい。ただ、各ご家庭の事情も配慮し、強制することは慎重になるべきかと思う。もし全員給食にするなら、無料もしくは小学校くらいの金額に減額するべきかとも思う。
少ない時間で食べれる量に個人差があるから。
特にないが 今で満足だから
アレルギーがあるため
好きなものを選べる方がいいから
給食は栄養バランスがとれているとは思いますが、量や味等合わないものをムリして食べるのは良くないと思う。
強制する必要はないと思う
給食費の負担を無くしたいから

【中学校生徒】

主な意見
給食よりお弁当の方が美味しいからお弁当にする子もいるし、親の都合でお弁当が良くても給食にしないといけない子など、自分の好きなものを食べたりできた方が嬉しいから
アレルギーなどで食べられない子もいるため、自宅で作った弁当のほうが良いと言う人もいるし、もともと食が細くて給食が多いと言う子もいるから
全員給食だと残す人が多くなり、食品ロスが増えるから。
給食が嫌な人、給食が良い人、両方が納得できると思うから
給食がおいしくないから
体調や自分の食べる量によって調節することができるから
給食だけよりも、その他お弁当とかを持参できる方が一人一人選べることができていると思うから。また、給食は小学校の時のものが味に慣れていたりするので、どちらかという小学校の給食が良い、食べたい。
家庭の事情
月に6600円ほど払うより各家庭で作っている方が弁当などの方がいいという方にとっては、そっちの方が良いのではないかと思ったから
自分の好きな物が食べたい
お母さんが作ってくれるお弁当が好きだから
当番の人が重くて大変になる
・もしアレルギーがたくさんある子がいたら、その子はみんなは同じものを食べているのに1人だけ違うものという気持ちが湧き上がってしまうかもしれないから。でも選択できたら、必ず1人ではない
・家庭の金銭面 もし、ある家庭が貧乏として給食費は高い!!となった時、お弁当を作った方が安く済むなら、そっちの方が家庭に優しいのかなと思う
・食品ロス 必ずしも全員が給食を小盛りにしたとて、食べ切れるとは限らない。 だからこそ、自分に合った量で持って来れるお弁当にすることでロスを削減する。
それぞれ個人の自由でいいと思うから。
給食の量が多いとか嫌いな物が多いとかの理由で給食を残してしまう人は、お弁当にした方が環境に良いと思うし、残す時の罪悪感も無くなると思うし、逆に、「お弁当を作ってくれる人がいない」とか、「お弁当を作る時間が無い」などの理由で昼食が自分で用意できない人は給食の方が良いと思うから、選択制給食の方が良いと思った。
コロナが怖い人もいると思うし、給食が嫌いでお弁当やパンを持参している人もいるのに強制的に給食に変更されるのはおかしい。また、金銭的に給食を食べられない生徒もいるかもしれないから。
偏食などがあると、給食では十分にご飯を食べることができないから。

5. 給食費の負担者について

【保護者のみの質問】

回答項目	回答率
① 父	75.8%
② 母	13.8%
③ 祖父	0.1%
④ 祖母	0.1%
⑤ 他の家族や親せき	0.1%
⑥ 就学援助・生活保護を受けている	7.5%
⑦ その他	2.7%

※その他の回答内容

・給食を選択していない ・母子家庭の援助を受けている ・両親 ・家計から支出

6. 1日の食事回数について

【中学校生徒の保護者】(子どもの食事について回答)

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	96.1%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	3.7%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.1%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.1%
⑤ 一日1食のみ	0%

【中学校生徒】

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	92.9%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	6.4%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.1%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.2%
⑤ 一日1食のみ	0.3%

中学校生徒の1日の食事回数については、「1日3回(朝・昼・晩)食べている」が92.9%でしたが、朝ごはんを食べていない中学校生徒が6.4%みられました。1日1食しか食べていない中学校生徒が0.3%いるのに対し、保護者では0%となっており、弁当や給食ではない中学校生徒が昼食を買わずに実は食べていないという可能性も考えられます。中学校生徒の②から⑤の回答から、全体の7%の中学校生徒が成長期における十分な栄養摂取ができていない可能性があることがわかりました。

※ 7. 今後の中学校給食に希望することについては、小学校アンケート以降にまとめて掲載

(B) 小学生の保護者及び児童に対するアンケート結果について

1. 中学生になった際の給食の選択について

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①給食を選択しようと思う	50.3%
②弁当やパンなどを持参させようと思う	17.3%
③わからない	29.0%
④その他	3.4%

※その他の回答内容

- ・給食と弁当を併用したい
- ・周りのお友達と合わせたい
- ・本人次第
- ・子供が弁当を希望している
- ・夏場だけ給食利用
- ・給食の内容、量、費用など検討してから決めたい
- ・給食にしたいが子供は弁当がいいという。選択制ではなく給食のみにしてほしい
- ・小学校のように全員が給食にして欲しい
- ・中学校の給食が美味くなったら給食にしたい など

【小学校児童】

回答項目	回答率
①給食を食べたい	28.7%
②弁当やパンなどをもって行って食べたい	44.7%
③わからない	24.1%
④その他	2.5%

※その他の回答内容

- ・一度だけ食べてみたい
- ・どちらも食べたい
- ・給食が作りたてだったら食べたい
- ・試食して美味しかったら給食がいい
- ・お母さんと考える。給食だと時間以内に食べられるか分からないから
- ・小学生の時(今)と同じ給食なら絶対食べたい。違うなら味によって決める
- ・お母さんは給食にして欲しいと言っている
- ・弁当の日もあれば、給食の日もある感じがいい など

中学生になった際の給食の選択について、小学校児童の保護者は「給食を選択しようと思う」が50.3%で、約半数の小学校児童の保護者が中学校での給食を希望しているのに対し、小学校児童では「弁当やパンなどをもって行って食べたい」が44.7%と、「中学生になったら給食より弁当がよい」と考える小学校児童が多いことがわかりました。また、保護者、児童ともに20%以上が「わからない」という回答でした。

2. 給食の良いところについて

(質問1で①を選択した場合に回答)

※ 複数回答あり

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①仕事で弁当の用意が難しいので助かる	61.9%
②家庭での献立づくりの負担が軽減される	65.3%
③栄養のバランスがとれる	85.4%
④好き嫌いを直すきっかけになる	31.3%
⑤子どもの荷物が減る	56.9%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	64.5%
⑦食への関心や知識を得られる	21.1%
⑧安くて経済的	28.9%
⑨良い点はない	1.4%
⑩その他	3.4%

※その他の回答内容

- ・夏場などお弁当が傷みやすい時季は衛生面で安心
- ・同じものを協力して配膳して食べることで食育だと思える
- ・家庭での差がなく、全員が栄養をとれるので、給食は大事だと思える
- ・国産の食品で安心できる
- ・ひとり親等の負担軽減
- ・中学校時代給食を提供してくれている地域で育ったが、メリットしかなかった
- ・あたたかいものを食べられる
- ・色々な味付けを知ることが出来る
- など

【小学校児童】

回答項目	回答率
①おいしいと思う	66.7%
②家での弁当づくりがいらなくなる	36.2%
③栄養のバランスがよい	64.8%
④すきらいをなおせる	24.9%
⑤みんなが同じものを食べることができる	34.3%
⑥家で食べることがないメニューがある	57.4%
⑦食べることをいろいろ知ることができる	21.9%
⑧弁当をもっていなくてもいい(にもつがへる)	35.0%
⑨よいところはない	5.9%
⑩その他	2.6%

※その他の回答内容

- ・みんなが給食について盛り上がる事ができる
- ・温かいものを温かいまま食べられる
- ・お母さんがお弁当を早く起きて作る必要がなくなる
- ・作り忘れることがない
- ・いろんな行事の食べ物を知ることができる
- ・おかわりがいっぱいできる
- ・給食で食べた物が美味しかったらお母さんが作ってくれて、ご飯のバリエーションが増える
- ・みんなのために、給食作ってくれるから、嬉しい!
- ・感謝ができる
- ・友達と楽しく食べられる

給食の良い点について、小学校児童の保護者は「栄養のバランスがとれる」が 85.4%で最も多く、次いで、「家庭での献立づくりの負担が軽減される(65.3%)」、「家庭で食べることがないメニューがある(64.5%)」、「仕事で弁当の用意が難しいので助かる(61.9%)」となっており、栄養面やバラエティー豊富なメニュー、日常の負担軽減において給食を評価していることがわかりました。

また、小学校児童が給食を良いとする点については、「おいしいと思う」が 66.7%、「栄養のバランスがよい」が 64.8%と、保護者同様、給食としてのおいしさや栄養面を評価していることがわかりました。

3. 給食の良くないところについて (質問1で②を選択した場合に回答)

※ 複数回答あり

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①子どもが給食を嫌がる	25.8%
②家でつくった弁当の方がよい	5.9%
③パンなどを購入する方がよい	0.5%
④献立に変化がない	4.0%
⑤子どもが嫌いな食べ物が多い	11.3%
⑥量が多い	6.0%
⑦量が少ない	13.0%
⑧給食費が高い	14.3%
⑨良くない点はない	38.0%
⑩その他	12.0%

※その他の回答内容

- ・小学校の給食はすごく美味しいと言っているが中学の給食は美味しくないと感じた
- ・子どもの食べる量に応じた量の差をつけられない(つけにくい)ところ
- ・中学のボックス型の弁当が美味しくない
- ・みんなが食べないと給食の引き取りや返却に時間を要する
- ・食物アレルギーがある
- ・お弁当を楽しみにしている
- ・ご飯の時も牛乳が出る
- ・頼む人が少ない
- ・選択制になっているところ
- ・全員が給食ではないから、友達から「作ってもらえないの」と聞かれてしまう
- ・お弁当を取りに行くのが苦痛。その間の友達との会話内に入れず、不安な面もあるらしい
- ・昼食時間にある場所まで給食を取りに行くのが面倒だから給食は嫌だと聞いた
- ・食べる量の調整ができない
- ・衛生環境がわからない
- ・全員給食ではない
- ・実際に利用していないのでわからない

【小学校児童】

回答項目	回答率
① おいしくないと思う	6.7%
②弁当やパンなどのほうがよい	16.9%
③気に入ったメニューがない	7.5%
④きれいな食べ物がでてくる	36.8%
⑤食べ残しができないように思う	11.7%
⑥小学校でもうあきた	6.7%
⑦昼休みの時間がなくなる	7.6%
⑧給食当番がいや	26.1%
⑨よくないところはない	41.4%
⑩その他	2.3%

※その他の回答内容

- ・食べる時間が少ない
- ・自分で給食の量を決められない
- ・アレルギーがあるから大変
- ・苦手な食べ物だと食べ終わるのが遅くなる

- ・食べたくないものもできるだけ頑張って食べないといけないから、お弁当の方がいい
- ・給食を作る人が一生懸命作っているのに残す人がいるから 調理員さんの労働時間が多いから
- ・選べるところ、全員給食になる事を願う
- ・中学校の給食は美味しくないと言っている

給食の良くない点について、小学校の保護者・児童ともに「良くない点はない」が最も多く、次いで、保護者では「子どもが給食を嫌がる(25.8%)」、小学校児童では、「きれいな食べ物がでてくる」が38.5%という結果となりました。

4. 中学校における昼食について

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①小学校と同じように全員を対象とした給食が望ましい (全員給食)	71.8%
②給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい (選択制給食)	26.1%
③その他	2.1%

※その他の回答内容

- ・小学校と同じような形式で全員給食が望ましい
- ・味を美味しく、温かい給食が食べられるのであれば全員給食を選択する
- ・全員給食が望ましいが、食べる量の個人差が大きいため、追加持参も許可すべき
- ・週単位で選択出来ると助かる ・給食が不要 ・どちらでもよい
- ・給食でもお弁当でも統一するのがいい
- ・義務教育での全員給食なら、金銭的負担を減らすのが望ましい

【小学校児童】

回答項目	回答率
① 小学校と同じみんなで食べる給食がよい	45.8%
② 給食または弁当・パンなどをえらぶことができるのがよい	54.2%
③ その他	0%

中学校における昼食として、保護者は「全員給食が望ましい」と71.8%が回答しており、全員給食を望む声が非常に高いことがわかりました。

また、小学校児童では、「給食または弁当・パンなどをえらぶことができるのがよい」が54.2%で最も多い回答でしたが、「小学校と同じみんなで食べる給食がよい」と45.8%が回答しており、小学校給食と同じ給食を求める意見も多くみられました。

【小学校児童の保護者】

主な意見
お弁当か給食かと選択肢があるから嫌がると思うのです、選択肢を無くして欲しい。
選択肢があると、給食希望でも子供が周りに合わせたがる
親の負担が軽減されるため
子どもの栄養面を考えると給食の方がよいのは間違いないが、中学生という年代の特性から、友達と一緒にないと恥ずかしい(友達がお弁当なら、お弁当にしたい等)というだけで、お弁当を選ぶことがある。 経済的理由から給食を頼めない子どもがいる。(全員給食なら仕方がないと思う親も、選択制となると、安い価格であっても、購入するのを躊躇する親がいる。もっと安いパンとかで済ませてしまう。)
皆と同じものを食べることによって、話が共有できるし同じものを食べながらコミュニケーションがとれる
栄養の偏りの改善と現状周りの生徒が弁当だと頼みにくい。また、片付けなど給食を頼むものが少ないと申し込んだ者の負担が多くなる。現状給食後体育などの授業があるとその子たちだけが、片付けて遅れて注意を受けたりすることがあるので全員喫食でないと公平に授業を受けられない。 なぜ関東と同じように大阪でも全員喫食に出来ないのか疑問。
各家庭によつての差が出ないため
小学生まで全員を対象にしていたのに選択制にするのはおかしい。 全員が給食になれば、子供達も何の疑問も持たずに受け入れると思う。
栄養のバランスを考えてくれるから
子供はお弁当が喜ぶが残されるのは困るため、好きな食べ物の割合が多くなってしまい、栄養バランスが悪くなるため。給食だと親の負担も減り、梅雨や夏場の食中毒の危険性もなくなる
給食を取りに行ったりする手間がありその間に他にグループができ輪に入れないなど友人関係に問題がでけると聞いている。それが心配。一刻も早い全員給食を望む。
配膳や片付けの役割分担の責任と同じ物を一緒に食べる事は、この先の人生に無い経験だと思うから
全員同じものを食べて、平等にするほうがいい

【小学校児童】

主な意見
みんなで同じものを食べると、ものすごく美味しいと思いながら食べることができると思うし、自分と嫌いなものが、一緒の子とも仲良くなって、ものすごく仲の良い友達になれると思うから。
みんなと違ったら、恥ずかしかったりするから
みんなと同じだと、安心する
栄養のバランスがとれた昼食を食べることができる
お母さんの負担が減るから
やっぱりそれぞれ家庭の事情があって買えない人もいるだろうし、人目が気になる子もいるとおもう
好き嫌いを少しでも減らせると思うから

主な意見
美味しく、たまらないぐらいまいから
いっしょに食べるともっとおいしいから
色々家で食べない食べ物や、郷土料理など美味しいものがたくさん出るから
栄養バランスが良い、友達と給食のことをたくさん話せるから
みんなで平等に食べたいから
食べた事が無いものが出来て楽しい

4-(2). 選択制が望ましい理由について (質問4で②を選択した場合に回答)

【小学校児童の保護者】

主な意見
様々な家庭事情があるため、臨機応変に選択できる方が良いと思うから
現状の運用で良いと思っているから
子どもがお弁当を望んでいるから
食べる量が各々違うため
苦手な食材が多いため
保護者にとって給食は、栄養バランスは魅力的ですが、その反面子供にとって魅力的かと言うと、残念ながら違うのかなと思う。中学生になると小学生の時とは違い、嫌いな物、苦手な物を残さず食べるという考えが薄くなり、給食を残してしまうことが出てくるような気がする。残さないよう家庭で指導したとしても、難しいと思う。 そうすると、エネルギー不足になるのではないかと心配。 多少栄養が偏ったとしても、しっかり食べ、午後の授業と部活を乗り切の方が私は大切だと考える。
体調や、部活動のスケジュールに合わせて調整できるから
給食費の軽減
本人が食べたいものをできるだけ食べさせたい
兄弟がいるためまとめてお弁当ができるため
アレルギーのある子や宗教的な問題で食べてはいけない物がある方に配慮出来ると思います

【小学校児童】

主な意見
自分の好きな食べ物が入れられるし自分で量を決められるから
給食が好きな人や、弁当が好きな人もいるから
給食は嫌いな食べ物が出た時、残しにくいと思うから
安心な食べ物を食べられるから
選ぶ方が気分が変わえられるから。
自分で食べれる量が調整できるから
お弁当が好きだから
自分でお弁当を作る練習もしたいし、給食ばかりだと飽きるから。
調理員さんの作る量も減るから働き方改革にもなるから
給食当番がない

5. 給食費の負担者について

【保護者のみの質問】

回答項目	回答率
① 父	79.8%
② 母	13.2%
③ 祖父	0%
④ 祖母	0.1%
⑤ 他の家族や親せき	0.1%
⑥ 就学援助・生活保護を受けている	6.4%
⑦ その他	0.5%

※その他の回答内容

・両親 ・家計から ・就学援助

6. 1日の食事回数について

【小学校児童の保護者】(子どもの食事について回答)

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩) 食べている	98.33%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	1.53%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.08%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.03%
⑤ 一日1食のみ	0.03%

【小学校児童】

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩) 食べている	94.51%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	4.43%
③ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.53%
④ 一日1食のみ	0.53%

小学校児童の1日の食事回数については、「1日3回(朝・昼・晩) 食べている」が保護者で約98%、小学校児童で約95%でしたが、朝ごはんを食べていない小学校児童が4.5%程度みられ、保護者の③の回答から、休日に昼食を食べていない小学校児童もいることがわかりました。

また、晩御飯を食べていない場合や1日1食しか食べていない小学校児童も同じ割合でみられ、給食の実施のない日や朝や晩に欠食している場合があり、発育・発達期において十分な栄養摂取ができていない小学校児童がいることがわかりました。

7. 今後の中学校給食に希望すること

【中学校生徒の保護者】

主な意見
兄弟2人分の給食費負担が大きい。兄弟割があれば有り難い。
小学校と同じような給食にしてほしい。その方がコストも低いと思う
小学校同様の方式にして個々に応じた量の調整が出来るといいと思う
美味しい給食がいい
ご当地グルメを取り入れたり、海外のグルメなんかを取り入れたりして、見て楽しい、食べて美味しい食育をしていくと子供たちも喜ぶのではないか
もう少し家庭料理に近いものだといい
先入観や同調圧力からかもしれないので、給食にしても良いと思う家庭が増えるようお試しデー等してはどうでしょうか。
安全安心な全員給食を時間がかかっても実施してください
全額負担で、全員給食を希望
配膳先をもっと近場にして便利にして欲しい
中学校は小学校より給食時間が短く、委員会やクラブ・教室移動等昼休みも時間が取られる事が多い。給食だと準備片付けに時間がかかるので、食べる時間がより少なくなると子ども達から聞くので、もう少し余裕を持った時間設定をお願いしたい。
小中一貫給食希望
早く全員給食にしてほしい
給食は栄養面でもバランスが取れて良いとは思いますが、全員給食制ではなく子どもの希望によって選択できる制度を続けて欲しい
全員給食にしてほしい。給食を選ぶ子が少なくて、選んでいる子供が罪悪感や片身が狭くなる。
衛生面と添加物のない安全性を第一に栄養がある美味しいお料理をこれからも提供していただきたい。
全員給食のお弁当ではない、おかずごとに配膳する給食を希望。
一日置きの利用(月・水・金や火・木)でも申し込めるようになれば嬉しい。
全員給食になることで教員の方に負担ばかりを掛けるのではなく、シルバー人材や地域ボランティアなどを積極的に導入すれば良いと思う。これからの社会を支える少ない人材を大切に育てる事を念頭におき、これまでの既成概念にとらわれない新しい取組をどんどん取り入れて、より良い教育にして頂きたい。
何故、小学給食のようにおいしくできないのか？ 改善してほしい
物価の値上がりがあるが値段が上がらないように努力していただき感謝している。大変だとは思いますが美味しく栄養バランスを考えて頂くメニューを続けて欲しい。
お弁当でもよかったが、折角中学校給食を始められたのであればみんなが喜べるようにしてもらえたらと思う。
交野市の中学給食制度が羨ましい
野菜メニューが、どろどろになっていて、味も美味しくない、ほとんど残しているらしいので、美味しく提供してほしい。
出来立ては美味しくても、保温容器で、長時間熱が入った状態のせいではないかと推測している。子ども達が美味しく野菜を食べられるようにしてほしい。
義務教育までは全員給食がいいと思う。
小学校並の給食ならば喜んで食べると思う。
全員給食型にして欲しい。値段を下げて欲しい。出来れば無料がいい

<p>全面給食賛成派ですので可能な限り推し進めていただき近い将来は当たり前のようになってほしい。(後世の児童へ)</p> <p>また全面給食により家庭内の負担はもとより、給食業者の雇用にも繋がり少しでも景気回復の足掛かりにも期待したい。</p> <p>もちろん食品偽装問題や食中毒問題など業者にはいつもリスクがつきものですが、消費者の期待を裏切らない美味しい給食を目指して誠実な業者の学校給食を望みたい。</p>
<p>試食会で食べたときに小学校と違う味で給食を嫌がりお弁当にした。</p> <p>小学校と同じならまた食べたいと言っていた。働いているので給食にしてくれたら助かるし栄養バランスもいいので小学校で作って欲しい</p>
<p>申込み時には献立確認出来るのだから、月毎ではなく、日々に申込み出来るありがたい。</p> <p>良くないとは思いますが、やはり好き嫌いはある。その日の献立によっては、ほぼ食べずに残す日もあると子供から聞く。</p> <p>運動部なので、残した日は空腹でへろへろになって帰ってくる。</p> <p>フードロスの観点から、申込み時に献立を確認して申し込めるようには出来ないか?</p>
<p>中核都市の枚方なので是非子育てに注力して小学校の給食みたいな、原点に戻ったモデル都市になってほしいと願う。</p>
<p>小学校で配膳形式でできることがなぜ中学校でできないのかがわからない。</p> <p>元々全員を対象にしない前提でやるからこうなるのではないか。</p>

【中学校生徒】

主な意見
おかずの量も増やせるようにしてほしい
小学校と同じメニューにしてほしい
価格を安くすれば頼む人が増えるのではないかと思う
おかずの温度の幅を増やしてほしい。ものすごく熱いか冷たいかの二択しかないので、普通の温度も作って欲しい。味噌汁が熱すぎる。舌やけどするかと思った。あと、味が悪いものが結構多い。給食を教室まで運ぶのが大変。特におかずの箱。ものすごく手が痛くなる。もう少し持ちやすいケースにしてほしい。
各献立において量を自分で選べるようにしてほしい
食べられるものの上に食べられないものが乗っていることがあり、食べているのですが美味しくなく感じてしまう。
また、量が多すぎるという子もいるので、少量のものは少量を減らして欲しい。 (時間がなく残すことになってしまうため)
器を持つとかなり熱いので、できればそこも改善してほしい。
おかずとおかずが混ざったりして美味しくないと聞いたことがあるので、いっしょのお皿ではなくて、違うお皿にわけたほうがいいと思う。
見た目を彩ってください。茶色が多い。
おかずの汁もれやご飯の水滴もれが多々あるので改善されたら嬉しい。机がベタベタになってるのでそれが困っているの
小盛りのご飯を、もっと小盛りにして欲しい
おかずをもっと増やしてほしい
ご飯を3杯に増やしてほしい
今のままでいい
トレー(箱)の色を変えた方がいい
家ではなかなか食べられないものや、栄養バランスがしっかりと考えられたものが出てきて、とても良いなと感じている。でも、大おかずやおかずが熱すぎて、火傷をしそうになるこ

とがある。食中毒の観点などでよく火を通さなければならないことや、温かいものを提供できるようにしていることはわかるが、もう少し冷めた状態で出てくると嬉しい。
中学校も小学校の給食と同じにしたらいいと思う
部活動があるので懇談期間中は給食を出して欲しい
量をもう少し減らしてもいいと思う。(残している人がほとんどだから) その代わりに、おかわりシステムを作るか、足りない分の持参の許可を出してほしい。

【小学校児童の保護者】

主な意見
栄養バランスとあたたかいものだとありがたい
小学校と同じものがいい。とても良く考えられていて、子供も給食が大好きなので。
中学校の給食は美味しくないと聞きますが小学校のような美味しくてバランスのとれた給食だとすごくありがたい
無料にしてほしい
食材の安全性や調理工程についてとても気になるし心配なので、そこはきっちりしていただきたい。
小学校給食のように、作り立てを食べさせてあげたい。
小学校のようにみんなで同じものを食べてくれた方が、利用しやすい
子供たちが美味しくしっかりとした量の食事を取れる環境であればと思う
みんなで給食を食べられたら嬉しい
このままでいいと思う
是非、全員給食制度を実現していただきたい
栄養バランス、適切な量、温かい状態での提供
食べる事=生きる事だと思いますので美味しく食べられたものが身となるように願う
共働きの家庭がほとんど。家庭によりお弁当の内容も全然違う。敏感で難しい時期の子供たち、ぐんと成長する時期の子供たちです。全員が同じ美味しい、栄養のある給食を食べられるようにしてあげてください。枚方は遅れていると思う。ぜひ早く変えてください。
ランチボックスではなく小学校のような配膳だと、残すことに後ろめたさを感じないので、そちらなら給食を希望する
仕入れ先の衛生管理が徹底されている業者の食材を使用してください。 今年5月頃に鳩フンで問題になったお米は中学校では使用していないとのことでしたが、これからも使用しないで欲しい
小学校のような温かく量も調整できる美味しい給食
Aランチ、Bランチのように複数種類から選べるといい
複数のおかずの味がまざりあって美味しくないらしい。容器の工夫をしてほしい。
全員一律で給食にしてほしい。弁当持参の夏場は衛生面が心配。 小学校と別メニューではなく、小学校と同じ給食で量を増やすだけで良い。子供も小学校と同じ給食なら給食が良いと言っている。
他の市では中学校給食が当たり前だったりするのに、なぜ枚方はまだそうになっていないのか不思議。
小学校の給食が子供は大好きなので、我が家は中学校も給食にしたいと思っている。給食のメニューも色々あると子供も毎日、喜ぶと思う

【小学校児童】

主な意見
小学校と同じにしてほしい
みんなで食べる給食が良い

給食の量を選べるようにしてほしい
小学校と同じようにバランスの良い食事が良い
食べられる量が選べたり、種類を選択出来たりすると嬉しい
具が混ざってぐちゃぐちゃになるのをやめてほしい
栄養バランスが良いものをできるだけたくさん出してほしい
給食当番をなくしてほしい
給食か、お弁当か、選べたらいいと思う
美味しくて安全な給食にしてほしい
差別を無くして欲しい、みんなが公平な給食
これからもおいしい給食が食べたい
好きな人と食べれて、いろいろなメニューが選べるといいと思う
他府県の郷土料理や外国のご飯が出てきてほしい
この週は子供たちが考えた給食、この週は学校が決めた給食って分けてほしい

その他 (アンケート クロス集計)

●<質問1の回答ごとの児童生徒(学年別)>●

(質問1) 中学校給食を選択していますか(選択しようと思いますか)

質問1	学年	小学校(学年)				中学校(学年)		
		3	4	5	6	1	2	3
● 給食を選択している (選択しようと思っている)		279人	361人	149人	23人	224人	170人	159人
● 給食は選択していたが 今は選択していない		—	—	—	—	20人	26人	13人
● 弁当やパンを持参		256人	330人	438人	484人	144人	105人	80人
● わからない		149人	196人	251人	272人	—	—	—
● その他		23人	19人	19人	30人	6人	0人	0人

中学校では、本アンケートに回答した中学校生徒のうち、現在「給食を選択している」と回答した人数が最も多く、特に学年によって大きな差は見られませんでした。

小学校では、3、4年生で中学校へ行ったら「給食を選択しようと思っている」と回答した人数が多いのに対し、5、6年生では「弁当やパンを持参」と回答した人数がかなり多くなっており、学年が上がるにつれ、給食より弁当やパンを好む傾向にあることがわかりました。

●<質問1と質問4におけるクロス集計>●

(質問1) 中学校給食を選択していますか(選択しようと思いますか)

(質問4) 中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問1	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択している	保護者	54.6%	44.1%	1.3%
	生徒	17.9%	76.1%	6.0%
② 給食は選択していたが 今は選択していない	保護者	64.8%	31.2%	4.0%
	生徒	8.5%	88.1%	3.4%
③ 弁当やパンを持参	保護者	61.6%	34.6%	3.8%
	生徒	6.8%	92.9%	0.3%
④ その他	保護者	50.0%	50.0%	0%
	生徒	0%	100%	0%

【小学校】

質問I	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択したい	保護者	75.3%	23.8%	0.9%
	児童	74.4%	25.6%	0%
② 弁当やパンを持参	保護者	61.9%	35.4%	2.7%
	児童	10.1%	89.9%	0%
③ わからない	保護者	72.2%	25.0%	2.8%
	児童	34.0%	66.0%	0%
④ その他	保護者	68.0%	23.4%	8.6%
	児童	24.7%	75.3%	0%

小学校・中学校ともに、中学校における給食の選択の有無に関わらず、保護者については「全員給食を望んでいる」という意見が最も多いことがわかりました。

また「中学校になったら給食を選択したい」と答えた小学校児童については、全員給食を望むという意見が多かったのに対し、質問Iでそれ以外の②～④を回答した場合は、選択制給食を望む意見が多くみられました。生徒においては、給食の選択の有無に関わらず、「選択制の給食を望む」という意見が非常に多い結果となりました。

●<質問1と質問5におけるクロス集計>●

(質問1)中学校給食を選択していますか(選択しようと思いませんか)

(質問5)給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか

【中学校・保護者】

質問1 \ 質問5	回答者	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
		① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 給食を選択している	保護者	70.8%	17.2%	0%	0%	0.1%	11.5%	0.4%
② 給食は選択していたが今は選択していない		75.0%	17.0%	0%	0.8%	0%	4.0%	3.2%
③ 弁当やパンを持参		84.5%	9.0%	0.1%	0%	0%	3.2%	3.2%
④ その他		66.7%	16.7%	0%	0%	0%	16.7%	0%

【小学校・保護者】

質問1 \ 質問5	回答者	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
		① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 給食を選択したい	保護者	75.4%	15.7%	0%	0.1%	0.1%	7.8%	0.9%
② 弁当やパンを持参		85.4%	9.1%	0%	0.2%	0%	5.0%	0.3%
③ わからない		83.2%	11.4%	0%	0%	0%	5.0%	0.4%
④ その他		82.4%	13.0%	0%	0%	0%	3.8%	0.8%

給食の選択の有無に関わらず、給食費(昼食代)は父親が負担しているという回答がもっとも多く、次いで母親という結果となりました。また、質問1で「その他」を選択しているのは、中学校では、給食と弁当を併用している場合、小学校では、併用を考えている若しくは中学校給食を経験していないので食べてから決めるという場合でしたが、その場合においても給食の負担者については同様の結果でした。

そのほかとして、中学校で現在給食を選択している約1割が就学援助等を受給していると回答しています。また、小学校で現在就学援助等を受けている家庭では、中学校での昼食について、給食、弁当やパン、併用など、意見が分かれる結果となりました。

●<質問6(保護者)・質問5(児童・生徒)の回答数>●

(質問)児童・生徒の一日の食事回数について

質問	回答者	小学校		中学校	
		保護者	児童	保護者	生徒
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている		3,657人	3,413人	1,603人	882人
② 一日2食(朝は食べていない)		57人	160人	62人	61人
③ 一日2食(昼は食べていない)		3人	—	1人	1人
④ 一日2食(晩は食べていない)		1人	19人	1人	2人
⑤ 一日1食		1人	19人	0人	3人

保護者・児童・生徒いずれも「一日3食(朝・昼・晩)食べている」という回答が9割を超えています。
次に多いのは「一日2食(朝は食べていない)」という回答ですが、小学校の保護者の回答は57人ですが、小学校児童の回答からは160人が朝食を食べていないという結果となりました。この回答の中学校は、保護者が62人、中学校生徒が61人となっています。
また、「一日1食」と回答したのは、小学校の児童で19人、中学校の生徒で3人となっています。

●<質問6と質問5におけるクロス集計>●

(質問6)お子さんの一日の食事回数について

(質問5)給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか

【中学校・保護者】

質問6 \ 質問5	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
	① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	73.8%	13.4%	0%	0%	0.06%	7.2%	5.6%
② 一日2食(朝は食べていない)	69.4%	12.9%	1.6%	1.6%	0%	11.3%	3.2%
③ 一日2食(昼は食べていない)	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
⑤ 一日1食	—	—	—	—	—	—	—

【小学校・保護者】

質問6 \ 質問5	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
	① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	79.8%	13.0%	0%	0.05%	0.03%	6.2%	0.9%
② 一日2食(朝は食べていない)	59.6%	22.8%	0%	0%	0%	17.5%	0%
③ 一日2食(昼は食べていない)	66.7%	0%	0%	0%	0%	33.3%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
⑤ 一日1食	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%

児童・生徒が「一日3食(朝・昼・晩)食べている」「一日2食(朝は食べていない)」の回答では、小学校、中学校ともに給食費(昼食代)は父親が負担しているという回答がもっとも多く、次いで母親、次に就学援助等を受けているという結果となりました。

●<質問6(保護者)・質問5(児童・生徒)と質問4におけるクロス集計>●

(質問6・5) 児童・生徒の一日の食事回数について

(質問4)中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問6・5 \ 質問4	回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	保護者	59.4%	39.0%	1.6%
	生徒	13.4%	82.7%	3.9%
② 一日2食(朝は食べていない)	保護者	51.6%	46.8%	1.6%
	生徒	8.2%	85.2%	6.6%
③ 一日2食(昼は食べていない)	保護者	100%	0%	0%
	生徒	0%	100%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	保護者	100%	0%	0%
	生徒	100%	0%	0%
⑤ 一日1食	保護者	—	—	—
	生徒	33.3%	33.3%	33.3%

【小学校】

質問I	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	保護者	71.8%	26.1%	2.1%
	児童	34.4%	64.3%	1.2%
② 一日2食(朝は食べていない)	保護者	68.4%	26.3%	5.3%
	児童	26.3%	72.5%	1.3%
③ 一日2食(昼は食べていない)	保護者	33.3%	66.7%	0%
	児童	—	—	—
④ 一日2食(晩は食べていない)	保護者	0%	100%	0%
	児童	36.8%	63.2%	0%
⑤ 一日1食	保護者	100%	0%	0%
	児童	31.5%	57.9%	10.5%

中学校の保護者については「全員給食を望んでいる」回答が最も多いことがわかります。また、小学校の保護者でも「一日3食(朝・昼・晩)食べている」「一日2食(朝は食べていない)」では「全員給食を望んでいる」回答が最も多くなっています。しかし、少数ながら小学校の保護者で、小学校児童が全員給食であるにもかかわらず、「一日2食(昼は食べていない)」といった回答がみられました。

小学校児童・中学校生徒の回答は、ほとんどが「全員給食」を「選択制」が上回りました。「全員給食」と「選択制」の回答率は、中学校生徒で概ね8:2、小学校児童で概ね7:3となっています。

「今後の中学校給食に関する方針(素案)」についての
パブリックコメント(結果公表)

「今後の中学校給食に関する方針(素案)」についてのパブリックコメントにつきまして、市民の皆さまからご意見をいただき、ありがとうございました。

お寄せいただきましたご意見と、ご意見に関する本市の考え方を以下のとおり公表します。

意見募集期間	令和4年9月1日(木)～令和4年9月20日(火)
意見提出者数	126人(ウェブ123人、意見提出用紙2人、メール1人)
公表意見数	328件 ※意見提出時に複数の意見を記入されている場合は、意見ごとに1件としています。

	項目	ご意見の要旨	件数	枚方市の考え方
1	今後の中学校給食の提供方式について	中学校給食の全員給食に賛成。	48件	枚方市の中学校給食は「ランチボックス方式では個々の食事の量の調整が難しい」などの課題がでてきたことに加え、ランチボックス方式の食器・保温カートなどのコスト上昇、受託業者が限られてくるなどといった持続可能性にも課題がでてきていることから、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方をあらためて検討することとし、令和3年度に有識者・PTA・学校関係者で構成する「枚方市中学校給食あり方懇話会」を設置し、幅広く意見を聴取しました。その中では、個々に食事の量が調整でき、食育上も有効となる「食缶方式」で、誰ひとり取り残すことなく必要な栄養摂取が可能となる「全員給食」が望ましいという意見が多く出され、調理場については集中的かつ高度な衛生管理体制が期待できるうえ、市が食材選定・献立立案を主導的にでき、市内または近隣立地のため調理後の配送に時間がかからずリスクが低い「センター方式」が望ましいという意見が多く出されました。令和4年7月には、市立小中学校の児童・生徒・保護者を対象に、「中学校給食に関するアンケート調査」を実施。全員給食を望む回答は中学生徒が約13%であった一方、小学校児童では半数近くの約46%、保護者では、全員給食を望む回答が中学校で約58%、小学校で約72%となっており、このほか「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答、生徒からは「小学校給食の方がよい」といった回答がありました。これらに加え、新型コロナウイルス感染症や、ロシアによるウクライナ侵略の影響等による原油価格高騰等に起因する食材料費の価格上昇等に対応する持続可能な給食のあり方についてもあわせて検討し、これらの検討結果等を踏まえ、中学校給食の食缶方式による全員給食、新たな給食センターの整備に
2		現状のままの選択制給食を希望。	9件	
3		食缶方式の全員給食を希望。	40件	
4		ランチボックス方式の全員給食を希望。	4件	
5		ランチボックス方式での選択制給食を希望。	2件	

				向けた「今後の中学校給食に関する方針」の策定に取り組んでいるところです。
6	全員給食が良いと思う理由	家では子どもが残さず食べてくれるメニューばかりになったり、保護者の苦手な食材を避けたりしがち。中学生の成長にとって、栄養バランスのとれた給食は大切。	32件	学校給食の献立は、「学校給食摂取基準」に基づいて献立を作成しています。この「学校給食摂取基準」は、厚生労働省が策定した「日本人の栄養摂取基準」を参考として、児童生徒の健康の増進を図るために望ましい栄養量を算出したもので、家庭での食事で摂取量が不足していると推測される栄養素を、可能な範囲で学校給食により補うなどの工夫がされています。
7		みんなで食べることで好き嫌いを克服できる機会になる。	4件	苦手な食材も味付けを変えることで克服できる場合や、久しぶりにチャレンジしてみたら食べることができたという場合もあります。学校給食は、様々な国の料理や郷土料理の提供など、調理方法も様々な工夫をし、多くの食文化を体験できるよう献立作りをしています。みんなと一緒に同じものを食べて、食事を共有することで苦手を克服し、様々な食材から栄養を摂れるきっかけ作りになればと考えています。
8		小学校と同じような給食が継続されることで、小学生が中学校に入学した途端に何もかもが大きく変化して子どもも保護者も途方に暮れる、といったリスクが避けられる。	1件	中学校入学時は、中学生になったことへの嬉しさや喜びだけではなく、環境が変わることへの緊張感もある中で、継続的な学校給食により、子どもたちや保護者の方々の順調な中学校生活のスタートへ繋げられるよう取り組みを進めてまいります。
9		選択制は周りにあまり利用している人がいないので、給食を頼みたくても頼みにくくなっているから。	12件	7月に実施した中学校給食のアンケート調査においても、「周りの友達が食べていない」、「みんなと同じがよい」という意見が見られ、食べたくても食べられない状況があることがわかりました。周りが気になる多感な時期に、昼食の時間の共有はかなり重要度が高いものであり、選択制であっても選択できないという状況をなくし、悩まず、安心して給食を食べられる体制づくりに取り組んでまいります。
10		義務教育である以上、生徒の健康的な生活を保障する必要がある。	4件	学校給食法において、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるよう努めなければならない」と規定されており、全員給食に向けた取り組みを進めていく必要があると考えています。
11		食が整えば、身体も心も整ってくるが、疎かにすれば身体も心も育たない。食の重要度が高い成長期に給食は必要。	5件	中学生の時期は生涯の中で最も多くの栄養素を必要とする時期であり、バランスよく十分な栄養を摂ることが健全な発育には重要です。「学校給食摂取基準」は、厚生労働省が策定した「日本人の栄養摂取基準」を参考に、児童生徒の健康の増進を図るために望ましい栄養量を算出したもので、学校給食はこの基準に基づき、成長期に必要な栄養を満たす献立作りをしています。
12		未来を担う子どもたちに投資するなら給食は100%必須事項。	1件	また、全国の郷土料理や世界の料理を献立に取り入れ、様々な食文化が体験できる工夫や、大阪府の「大阪エコ農作物」の認証を受けた大阪産や枚方産の農産物を季節ごとに使用する地産地消への取り組みを実施し、給食を通じた食育にも取り組んでいます。
13		給食はいのちの源。成長期の子どもたち全員が、美味しい給食が食べられますように。	1件	
14		季節に合わせた地産地消を取り入れており食への関心も高めるような工夫がされているから。	2件	

15	全員給食が良いと思う理由	3食まともに食べられていない子供がいるのも現実問題あると思う。貴重な栄養源として1食確保できるだけでも違ってくる。	6件	7月に実施した中学校給食のアンケート調査においては、食事回数が1日3食の生徒が大半を占めるものの、1日2食や1食と回答した生徒が合わせて約5%存在するなど、成長期に十分な栄養を摂取できていない生徒がいる実態が明らかになりました。小学生が1日2食や1食と回答したのは1.7%程度であり、休日の状況も含めて考えると、学校給食の果たす役割は重要であると言えます。また、お弁当のおかずにおいても「友達との格差を感じる」と感じている回答も見られ、全ての子どもたちが平等に充たされる全員給食への取り組みを進める必要があると考えています。	
16		全員が給食であれば平等になり親としても安心。	4件		
17		栄養教諭・担任による食育も進めやすいと思う。	4件		栄養教諭は学校給食の食数によって配置人数が決まることから、現在の選択制の給食では人数が限られており、すべての中学校へ配置できない状況です。全員給食の実施となった場合は、現在より栄養教諭は増員される見込みです。
18		夏など暑い日は衛生面でも安心できる	3件		学校給食は、厚生労働省の「大量調理施設衛生管理マニュアル」や文部科学省の「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」などに基づいて、食材の下処理、調理、容器への盛付(食缶への配缶)・食器洗浄・調理場の清掃などを実施しており、給食の温度管理も含めた衛生管理の徹底に努めております。
19		毎日のお弁当作りは親の負担が大きいから。	15件		7月に実施した中学校給食のアンケート調査においても、「毎日の弁当づくりの負担」や「成長期に毎日栄養バランスのとれた昼食は作れない」など、保護者や子どもたちが悩むことなく、栄養バランスが考えられた全員給食を望む意見をいただいております。本市においても、子どもたちへの食育推進や栄養確保、平等性などの観点から、全員給食の実施は必要であると考えております。
20	選択制給食が良いと思う理由	給食には給食の良さ、お弁当にはお弁当の良さがあり、良さだけではなく家庭毎の都合もあると思うから。	8件	「お弁当がよい」、「状況に応じて、給食かお弁当かを選択できる方がよい」という子どもたちや保護者の方からの意見があることは認識しております。今後、子どもたち自身が、中学校での給食について、様々な視点から考えていく機会を作り、課題等を解決する方策を検討する取り組みを進めていきたいと考えております。	
21		全員給食に変えるのは多様性への対応の真逆の方向に行く事になると思う。	1件		
22		親が作ってくれるお弁当を食べられる喜びを感じている子どももたくさんいる。給食にしたくない子どもの意見が多いことも考慮してほしい。	2件		
23		給食は食べたい人が食べるべき。	1件		7月に実施した中学校給食のアンケート調査においても、食べたくても食べられない状況があることがわかりました。誰一人取り残すことなく、成長期の大切な時期に給食からの栄養確保は重要であると考えております。
24		全員給食になってしまったら、給食代がかかってしまう。	2件		当面は現行の給食費1食330円を維持できるよう取り組んでいきます。食材料費のほかの調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、これまで同様に市が負担します。また、食材料費の

	選択制給食が良いと思う理由			高騰に対応し、給食費を引き上げることなく安定的な給食提供を継続するため、今後も取り組んでまいります。なお、現在行っている就学援助や生活保護受給者認定を受けられている家庭への支援については制度を継続してまいります。
25		お弁当だと自分が食べられる量を調節できるから。	2件	個々の成長速度や喫食量は様々で、特に中学生の時期は差が大きくなります。お弁当は、お子さんに応じて最適な量を持たせることができる昼食であると認識しています。現在のランチボックスによる給食は、量の調整が課題となっています。この中学校給食に関する方針(素案)は、個人にあった量の調整を解決するため、「全員給食の食缶方式」を今後の方向性として示しており、小学校と同様の給食提供を考えております。
26	全員給食の導入について	もっと早く実施してほしい	6件	全員給食を開始するには、約 10,000 人の給食を調理するための調理場や学校での配膳室の確保などの施設整備、調理用具や食器等の備品購入など、給食運営体制の構築や、給食時間の確保を含め、学校の校時表や配膳ルートの調整、食育指導、給食費の取り扱い、先行導入校の選定などについても十分な検討が必要です。学校や関係部署等と検討調整を重ねながら、方針(素案)に示すスケジュールでの実施を目指し、取り組んでまいります。
27		今後全員給食の予定がはっきりしているのでその方が良い。ぜひこの予定を実行させてほしい。	1件	
28		先行導入校を増やしてほしい	1件	
29		て 全員から給食代を取るのであれば、全生徒が残さず食べられる万人受けするメニューにするべき	1件	
30	全員給食による特例措置について	給食を原則としつつも、学校と家庭との対話の上、その選択肢を特例として置いておくことが望ましいのではないかと。	3件	アレルギーや宗教上食べられない食材があるなどで学校給食では対応が難しい場合もあり、ご家庭からの食事持参をお願いすることがあります。また、その他、ご家庭の状況等により、給食を摂ることが難しい場合は、ご相談の上、内容に応じた対応を検討する必要があると考えています。
4	ランチボックスが良いと思う理由	ランチボックス方式の全員給食を希望。	4件	ランチボックス方式は、温かい食事は温かいままに、冷たい食事は冷たいままに提供できるというメリットがあります。しかし、再加熱などの調理時間が長く、全体の色合いが茶色くなるなどの面もあります。また、食器や保温カートなどのコスト高など、経費面での課題もあると考えています。
5		ランチボックス方式での選択制給食を希望。	2件	
31		利用者の個別の状況(アレルギー対応や喫食場所や時間等)に丁寧に対応できることから、ランチボックスでの給食提供を希望する。	1件	

				から、容器の色を変えることで区別できるよう工夫しています。 全員給食においても、更に安全安心な給食提供ができるよう取り組んでまいります。
32	ランチボックスが良いと思う理由	衛生面でランチボックスの方がよい	4件	ランチボックスは調理場で各容器に盛り付けられ蓋をした後は、配膳から食べる直前までを衛生的に保つことができます。食缶方式は、教室へ運ばれるまでは蓋が付いており、盛付の時点で蓋が開けられます。 ランチボックスは、調理員が衛生的な服装・帽子・マスク・手袋を着用し、盛付を行っています。小学校では、国や大阪府が示す新型コロナウイルス感染症感染防止におけるマニュアル等を基に、給食時の指導を行っており、衛生的なエプロン・帽子・マスクを着用し、しっかりと手洗いをして、おたまなどを使って給食当番が盛付を行っています。
33		子どもの負担が軽減する	4件	7月に実施した中学校給食のアンケート調査では、現在、ランチボックスの給食を食べている子どもたちから、配膳室へ取りに行く時間が、お弁当持参の友達との差や負担を感じるという意見がありました。全員給食となった場合は、ランチボックス方式、食缶方式に関わらず、給食当番などの役割が必要となります。ランチボックス方式は、小学校給食のように盛付を行う必要はありませんが、小学校6年生では、10分かかる程度の時間で盛付作業を実施できていることから、スムーズな配膳・盛付ができるよう、動線も含め学校現場と調整を図りながら検討してまいります。
3	食缶方式が良いと思う理由	食缶方式の全員給食を希望。	40件	小学校の食缶方式の給食は、自らが盛り付けることで、実践により適正量を知ることができます。そのうえで、苦手ながらも挑戦する食べ物や個人に合わせた量に調整することも可能です。7月に実施した中学校給食のアンケート調査においては、児童、生徒に関わらず「小学校の給食はおいしい」、「小学校と同じ給食にしてほしい」という意見が多くありました。食缶方式の給食は、料理ごとに器に盛り付けます。他の料理の味が混ざることなく、それぞれの料理の味を味わえることが「おいしい」という意見につながっていると考えています。
34		食缶方式なら小学校と同じように、それぞれに応じた分量で提供されるし、残らず廃棄にせずちょうどよい量を分けられる。	8件	
35		「中学校へ行っても小学校と同じような給食が提供される」ことは安心。	1件	
36		小学校では給食が楽しみになるくらい美味しいので、中学校でもそうなると思えると嬉しい。	4件	
37	学校給食全般について	飽食の時代なので、給食撤廃が良い	1件	自らが確かな食を選べる力をつけるために、子どもたちが体に必要な栄養についての理解を深め、将来に渡る健康な体を維持するための知識を養うことは大切です。学校給食は、食事をしながら学べる教材です。小学校給食で学んだ食の知識を、大人になって実践できるようになるために、成長期の中学校給食の役割は大きいと考えています。
38		導入は大変かもしれないが、自校給食を希望する。	3件	自校方式は、給食の作り手の顔も分かり、作り立ての給食を食べることができるなど、食育の面でもおいしさにおいても理想的な方式です。しかし、中学校の敷地への調理場の

				建築や小学校との親子調理場方式の実現には、校内の敷地面積や建築基準法などの法律に関する条件、費用面など様々な課題があります。今後、全員給食に向けた可能性調査を行い、枚方市として最も適した方式について検証を進めてまいります。
39	学校給食全般について	温かいや冷たいがはっきり分かれていることおいしいものをおいしく食べることができてよい。	6件	小学校の食缶方式、現在の中学校のランチボックス方式においても、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられるよう、料理の出来上がり時間を調整したり、二重食缶や保温保冷カートなどを導入したり、子どもたちにおいしいまま届けられる工夫を行っております。
40		牛乳をメニューから外してほしい	4件	成長期のカルシウム摂取目標量は、1日あたり700～1,000mgです。本市中学校給食の摂取カルシウム基準値は1食あたり450mgであり、比較的カルシウムが豊富な大豆製品を献立に取り入れたり、料理へ牛乳を使用することで摂取しやすくしたりするなど、工夫をして献立の作成を行っております。牛乳は多くの食品の中でもカルシウム含量が多く(約220mg/コップ1杯あたり)、牛乳以外の食品のみで成長期に必要なカルシウムを摂取するのは、適正塩分摂取量を加味すると、かなり難しくなります。丈夫な骨や筋肉を形成するこの時期に、必要な食品として、全国的に学校給食には牛乳が提供されています。
41		パンとご飯を選べるようにしてほしい	1件	給食費はすべて食材の購入費に充てられています。パンとご飯では1食当たりの価格も異なり、個別の対応は難しい状況です。
42	現行の中学校給食の課題等	現在中学校給食を利用しているが、揚げ物はベチャベチャ、汁や味、匂いが他のおかずにも移り、おいしくない。	14件	現在の中学校給食のランチボックス方式は、調理後、ランチボックスに盛り付け、蓋をした後、衛生基準を満たした温度で提供するため、保温カートで再加熱を行っております。蓋をした状態で再加熱されることから、食材からの水分の流出があることでの味の変化や食材の鮮やかな色合いも落ちやすくなります。また、1つの容器に3種類程度の料理が入っているため、料理によっては匂い移りも発生します。小学校の食缶方式は、できた料理を食缶に入れ、食べる直前にそれぞれの料理をそれぞれの器に盛り付けることから、匂い移りや色移りもなく、食材の色合いをそのままに、それぞれの料理の味を味わうことができ、量も調整して盛り付けることが可能です。令和3年度の懇話会や令和4年7月に実施したアンケート調査では、現在の小学校給食のような給食提供を求める意見が多く、現在の中学校給食での味、量などの課題においても対応できる方式であると考えており、今後、小中同じメニューとすることも含め、検討してまいります。
43		中学校と小学校の給食のクオリティーと献立の選択の落差が大きい。小中同じメニューで提供するのが良い。	1件	
44		身体の大きさや食べる量が違うのに、栄養を考えて全員同じ量の給食には矛盾があると思う。	1件	
45		量の調整が難しい	6件	
46		子どもに喜ばれる給食作りをぜひお願いしたい	3件	
47		給食のメニューについて、もっと種類を増やしていてもいいと思う。	1件	給食のメニューについては、枚方市学校給食会の献立作成委員会において、栄養バランスだけでなく美味しさや手作り、食材や季節感

48		予算があると思うが、中学生の年代は大人へ向けての仕上げの年代でもあるので、今後の人材投資として、メニューを組んでほしい。	1件	も大切にして献立を考えております。今後も新規メニューの提供を始め、子どもたちに様々な食の体験ができるよう、努めてまいります。
49		フードロスの観点からも、献立を確認できるのであれば、給食を選択する日と選択しない日も選ぶ事が出来れば良いと思う。	2件	学校給食は学校給食法という法律に基づき実施しています。その目的には、「学校給食は児童及び生徒の心身の健全な発育に資し、かつ、児童及び生徒の食に対する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすもの」と示されています。現在の中学校給食は選択制ですが、選択制であっても、好き嫌いや個人の都合により、食べる日と食べない日があるものではなく、学校給食は子どもたちに必要な栄養量を継続的に摂取することで、健全な発育に資するものであることから、1か月単位の選択としています。
50		日単位で給食かお弁当を選択できるようにしてほしい。システム的には可能ではないでしょうか。	3件	
51		給食システムが分かりづらく面倒	2件	中学校入学時にお配りしています「枚方市中学校給食利用案内書」に「枚方市中学校給食の専用サイト」の予約方法と、よくあるお問い合わせとしてQ&Aを記載しております。ご不明な点がございましたら、枚方市中学校給食コールセンターまたは枚方市教育委員会おいしい給食課へお問い合わせください。
52	現行の中学校給食の課題等	小学校給食で立て続けに不具合が発生している。仕入元～調理場～提供までの安全衛生管理についてしっかりと第三者立会監査を行っていただきたい、抜き打ちで現場現地の点検をしていただきたい。	2件	調理場については、毎年保健所の監視指導があり、年度ごとに数校ずつ順番に実施しており、指摘事項があった場合は改善し対応を行っています。仕入元の業者については、保健所などの専門機関ではないため、立入調査を行うことはできませんが、定期的な「現場確認」は必要であると考えております。現場確認のチェック項目やスケジュール等も含め、検討を進めてまいります。
53		産地の公表や添加物を考慮して、安全な食材で作ってほしい。	4件	給食に使用する食材の産地情報はホームページに掲載しております。また、食材は枚方市給食会の物資選定委員会において、産地、品質、味、価格等を確認したうえで選定しております。今後も引き続き、安全安心な食材選定に努めてまいります。
54		食材全般を地元、枚方市産で賄って欲しい	1件	本市の令和4年度の児童数は約20,000人、現在、中学校給食を喫食している生徒数は約3,500人であり、1食あたりの食材の量はかなり多くなります。地元の農家等で、それだけの量を用意することは難しく、野菜などを育てる前から使用月を示したうえで生産を行ってもらっており、食材全般を常時枚方市産で提供するのは不可能な状況です。時期は限定的とはなりますが、地元農家の協力を得ながら、引き続き、地産地消の取り組みを継続してまいります。
55	学校における課題等	給食の時間の確保が必要	5件	令和4年8月現在、大阪府内43市町村のうち、全員給食の実施または移行が決定しているのは37市町村です。他の自治体が全員給食に移行するにあたり、学校現場で起こる様々な課題について、どのように調整しどのように解決したのかなどを情報収集しながら、課題解決に向け、学校現場と話を重ね、
56		今の人数だけの教職員だけでは大変な危機を覚える。安心して働けるため、人的支援を必ず実施してほしい。	4件	

57	学校における課題等	全員給食の導入は業務改善になっていない	1件	スムーズに移行できるよう取り組んでまいります。 また、栄養教諭については、学校給食の食数によって配置人数が決まることから、現在の選択制の給食では人数が限られており、すべての中学校へ配置できない状況です。全員給食の実施となった場合は、現在より栄養教諭は増員される見込みです。	
58		安心で安全な給食を提供するためにも、各中学校への栄養教諭の配置についても検討してほしい	1件		
59		給食室用に教室を捻出することも学校にとっては大問題で、校舎における教室配置が大きく変わることになる。	1件		
60		現在は選択制なので給食費の支払いがなければ食べない仕組みになっているが、給食費の納入がないままで食缶式の全員給食となるとどうなるのか。学校が徴収せず給食費の納入が自動でできる仕組みを制度化してほしい。	1件		給食費の徴収方法についても、できる限り学校や保護者に負担がかからない方法で実施できるよう、検討を進めてまいります。
61	給食費関連	1食330円での給食提供は有り難い	3件	当面は現行の給食費1食330円を維持できるよう取り組んでいきます。食材料費のほかの調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、これまで同様に市が負担します。また、食材料費の高騰に対応し、給食費を引き上げることなく安定的な給食提供を継続するため、今後も取り組んでまいります。	
62		給食費が高い	1件		
63		可能であれば、給食費を公費負担にしてもらえるとありがたい	3件		給食費はすべて食材料費にあてられており、調理場の光熱水費や運営費等は市の財源で運営しています。 令和4年度の児童数は約20,000人、生徒数は約10,000人であり、現在の給食費で単純に積算すると、年間あたり毎年約16億円の給食費が必要となります。市の限られた財源の中で、現在のところ全額公費負担とするのは困難な状況です。
64		支払いの方法をクレジットでも口座引き落としでもコンビニ払いでも構わないが、1カ月分ずつ支払えるようにしてほしい	1件		学校行事や懇談期間などは、中学校で日程が違うことから、1か月に提供する給食回数も異なります。そのため、1か月が定額とならないことから、1か月の通学日数を越えることがなく、かつ、分かりやすい回数として20回分6,600円を1回あたりの入金額としております。中学校給食では、自動申込や口座引落も取り扱っておりますので、必要な場合はご利用ください。
65		定期的に申請、振り込みの手続きもややこしい。	1件		
66		多児子育て世帯（子3人以上）に特別支援や補助があるとよい。	1件		現在、就学援助や生活保護受給者認定を受けている家庭への支援を行っております。今回のご意見にある多児子育て世代への支援につきましては、今後の給食費検討を行う中で、参考とさせていただきます。
67	アレルギー対応について	アレルギー食の質がすごく高くなっている今、アレルギー食でも全然気にならない時代になっていると思う。普通食とアレルギー食に分けるという考え方ではなく、アレルギー食時の一本化にしてはどうか。一本化にすれば事故が防げるし、みんなが同じものが食べられる。	1件	アレルギー対応については、調理員、栄養士、担任、本人(児童・生徒)だけではなく、保護者も含め、誤食が発生しないよう細心の注意を払い確実に除去する必要があります。個々のアレルギー状況は様々で多岐に渡るものであることから、確実に摂取しないために、食材の取り扱いや提供方法も含め、再度	

68	アレルギー 対応につい て	誤食をしないかの対応。アレルギー対応食の 扱いが大変心配される。	1件	検討する必要があると考えております。この たびのご意見も参考にさせていただきなが ら、誰にとっても安全安心な給食提供となる よう、検討を進めてまいります。
----	---------------------	-------------------------------------	----	--

学校給食調理場の種別比較

	センター方式	民間調理場活用方式	自校方式	親子方式
内容				
	給食調理場(共同調理場)で調理した給食を複数の学校へ配送する方式	民間事業者に市が調理(民間工場)・配送・配膳などの業務を委託する方式	学校敷地内の調理場(単独調理場)で調理した給食を当該校に提供する方式	学校(親)敷地内の調理場で調理した給食を当該学校に提供するとともに近隣学校(子)に配送する方式
利点	<ul style="list-style-type: none"> ・自校方式の調理場より厨房機器などの施設が充実 ・集中的な衛生管理ができる ・一括納品が可能で食材ロスの削減につながる ・調理場は市内または近隣立地 ・突発的な対応や変更が可能 ・防災機能の導入が可能 ・市が食材選定・献立立案を主導的にできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備等の初期費用が不要 ・他の自治体での事例が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自色が出しやすい ・配送が不要なため給食の適温管理ができる ・学校と一体的な活動が可能 ・調理員と生徒の交流や感謝の気持ちを育むことができる ・万一食中毒が発生した場合の被害拡大は(4方式中)最小限に抑えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自色が比較的出しやすい ・配送に時間を要しないため給食の適温管理ができる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校における個々の対応の調整が必要 ・万一の事故発生時のバックアップ体制の必要あり ・新たに整備する場合は用地確保、時間・費用が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材や調理員の管理等に市が関与しにくい(市が食材選定・献立立案を主導的にしにくい) ・突発的な対応や変更が困難 ・調理業務に係る費用負担(調理委託など)は大 ・調理場の立地が近隣ではないため調理後の配送に時間がかかるなどのリスクが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに整備する場合は学校敷地であるため建設に相応な時間・費用が必要 ・施設維持管理の費用負担 ・学校敷地内での用地確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・各調理場において人員の確保が必要 ・親の学校と子の学校の献立などを統一させる必要 ・施設維持管理の費用負担 ・学校敷地内での用地確保 ・建築基準法の用途規制
特記事項	初期費用を抑える建設の手法などに検討が必要(資金調達及び整備手法:PFI・DB等の手法、交付金など)	民間工場では現行のランチボックス方式での提供は困難	市内学校において新たな用地確保は困難であり現実的ではない	市内学校において新たな用地確保は困難であり現実的ではない

今後の中学校給食に関する方針（案） 1

枚方市の中学校給食の現状と課題について（総括）

中学校給食実施にあたっての検討経過

枚方市では、長らく中学校の昼食は弁当を持参することを基本としてきた。平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきた。

H23.2月	小・中学生へアンケート調査
6月	大阪府中学校給食導入促進事業(補助制度)創設
7月	枚方市中学校給食検討委員会設置
11月	実施手法の検討
H24.1月	市民アンケート調査
2月	「選択制の共同調理場(ランチボックス)方式」選定
3月	大阪府へ中学校給食導入実施計画書 提出
H25.3月	中学校給食の実施手法等に関する方針 策定
H26~	共同調理場・配膳室等施設整備 開始
H27.6月	枚方市学校給食会に中学校給食委員会 設置
9月	全中学校での配膳室整備 完了
11月	第一学校給食共同調理場 竣工
H28.4月	全市立中学校で選択制・ランチボックス方式の給食スタート

喫食率

【喫食率の推移】

(単位:%)

年度	H28	H29	H30	R元	R2	R3
喫食率	24.3	31.6	32.7	33.4	33.8	35.1

【喫食率向上の取り組み】

平成28年度からランチボックス・選択制給食を実施し、喫食率50%をめざした給食の魅力・利便性向上の取り組みを進める

〈魅力の向上〉

- ・フルカラー献立表の全生徒・教職員への配布
- ・全国の郷土料理や世界各国の料理を献立に取り入れて提供
- ・ご飯の量の選択が可能

〈利便性の向上〉

- ・インターネット予約
- ・コンビニ・クレジットカード・自動口座振替による決済
- ・自動予約のWEB申請

〈PR・情報発信〉

- ・6年生を対象とした中学校給食試食会
- ・給食PR動画(DVD)
- ・学校・PTAとの連携強化

子どもたちの声・・・

ほかに給食を食べている生徒がいない

みんなで給食の準備をしないので面倒

今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方を検討

58

社会情勢の変化・・・

ランチボックス→食缶へ変更する自治体増

ランチボックス方式 コスト上昇

ランチボックス委託業者 減少

今後の中学校給食に関する方針（案） 2

今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方

枚方市中学校給食あり方懇話会

有識者、PTA・小中学校の校長・栄養教諭のそれぞれの代表の合計9人で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を計5回開催し、幅広く意見を聴取した。

各委員から出された意見から、「ランチボックス方式は食事の量の調整が難しい」「選択制では食育が限定的」など現状の選択制では給食を選択する生徒の増加には限界があることが指摘される結果となった。また、成長期である中学生に必要となる「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見が多く示された。

【主な意見】

- 中学生に必要な栄養素を摂取できるのが学校給食
- 成長期に1日3食のうち1食でも給食を摂ることは意義がある
- 中学生期は食生活の自立に向けた大切な時期
- ランチボックスは食缶方式に比べ残食が多い
- ランチボックスは衛生面や配膳時間から取り扱いがしやすい
- 成長、栄養、食育の観点から全員給食が良い
- 全員給食なら給食を活用した食育を進めることができる
- 食育の推進の観点から食缶方式の全員給食が良い
- 個に応じた分量が提供、食育の観点からも食缶方式が望ましい
- 昼休みの時間など時間割の変更や職員の人的支援等に課題が多い

懇話会で検討した以外の社会情勢の変化

- ・新型コロナウイルス
- ・ロシアのウクライナ侵攻
- ・災害

原油価格・物価高騰

家計負担の増加によって食事の量や栄養面に不安が…

十分な食事や栄養がとれない

全員給食

にすることによって

- ・左記の影響に左右されない
- ・学校給食が栄養補給のバックアップとなり得る

児童・生徒・保護者へのアンケート調査

多くの保護者から「全員給食が望ましい」「栄養バランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答があった。一方で、多くの中学生から「選択制給食が望ましい」「量が多い・少ない」などの意見があり、小学生の意見は、半数弱が「全員給食が望ましい」、半数強が「選択制給食が望ましい」との結果となった。児童生徒に共通したものでは、給食の良い点について「栄養バランスがとれる」といった意見、給食の良くない点について「嫌いな食べ物が出てくる」といった意見があった。一日の食事回数については、ほとんどの児童・生徒・保護者が「一日3食食べている」と回答している中で、小学校児童で19人、中学校生徒で3人が「一日1食」と回答している。

(単位:%)	保護者		生徒	
	中学	小学	中学	小学
全員給食が望ましい	58.3	71.8	13.3	45.8
選択制給食が望ましい	39.1	26.1	82.8	54.2

今後の中学校給食に関する方針(素案)へのパブリックコメント

寄せられた意見は、126人からの328件。意見提出者126人のうち、中学校給食の全員給食に賛成が92人、選択制給食を希望が11人であった。提供方式では、食缶方式を希望する意見が53件、ランチボックスを希望する意見が15件という結果であった。このほか、提供方式それぞれの良い点、現行の給食の課題などの意見があった。

今後、生徒一人ひとりの健康・成長を支え、将来にわたって「食」への関心や理解を深めるための取り組みを進めていくことが求められている

今後の中学校給食に関する方針（案）3

望ましい
栄養量の摂取

多様な食に
ふれる

食に関する
重要な教材

望ましい
食習慣の形成

食に関する
実践力

児童生徒の
食生活の改善

一日3食食べていない生徒
の中に給食を食べていな
い生徒の存在

給食だけでなく昼
食自体を食べてい
ない子どもがいる

コロナ禍による貧
困は、中学生の食
に大きな影響

全ての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、すべての生徒の健全な成長を支えていくために、
中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく

給食の提供方式等

センター方式

食缶方式

配膳室整備

1食330円

完全給食

食物アレル
ギー対応

調理場の整備

第一学校給食共同調理場：6,000食/日
新たな給食センター：6,000食/日

↓
PPP/PFI手法導入を優先的に検討

【センター方式の採用について】

- ・集中的な衛生管理及び高度な衛生管理体制
- ・整備期間・コストを大幅圧縮
- ・厨房機器などの設備の充実
- ・一括納品が可能（食品ロスの削減）
- ・市内または近隣立地のため配送に時間がかからない（低リスク）
- ・突発的な対応や変更が可能
- ・防災機能の導入が可能
- ・食材選定・献立立案を市が主導的に実施可能

実施に向けた取り組み

安全・安心

食育の推進

栄養・健康

学校における対応

経済的に困難
を抱える家庭に
対する支援

今後の中学校給食に関する方針（案） 4

今後の予定（年次スケジュール）

年度	概	要
令和4年度	11月 PPP/PFI手法の検討 実行計画等の作成 今後の中学校給食に関する方針(案)作成 12月 PFI事業の可能性調査に係る補正予算案の提出(12月議会) 今後の中学校給食に関する方針策定 1月～ 配膳室調査・各学校調整開始 PFI事業の可能性調査の実施	
令和5年度	【PFI事業】 PFI事業の可能性調査の実施 9月 アドバイザリー委託補正予算案の提出(9月議会) 10月 アドバイザリー委託 事業者選定審議会	【中学校・第一学校給食共同調理場】 配膳室調査・各学校調整 (第一学校給食共同調理場設計委託) 11月 第一学校給食共同調理場調理配送等委託(R6.8)
令和6年度	5月 事業者選定 6月 調理場 設計・建設	6月 配膳室設計委託 (第一学校給食共同調理場改修工事)
令和7年度	12月 開設準備	7月 配膳室改修工事 開設準備 8月 先行導入校で全員給食 実施
令和8年度	全員給食の実施	

※可能性調査の結果により、事業手法や事業費等が変更となることがあります。

給食費の公会計化について

文部科学省「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」では、教員の業務負担の軽減のため、給食費を地方公共団体の会計に組み入れる「公会計制度」を採用し、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことが適切であると示されている。

公会計とすることで、新型コロナウイルスを含む災害時には、臨時的に保護者から給食費の徴収が困難となった状況でも、持続的に学校給食の提供が可能となる。

今後、先行導入されている自治体の事例研究などに取り組みながら、様々な課題を検討していく。



中学校の給食に係る自治体の時間割(例)

学校給食時間 一例

	給食方式	給食時間	昼休み
本市 中学校	選択・ランチボックス	12:35~13:15(給食時間と昼休み合わせて40分間)	
本市 中学校	選択・ランチボックス	12:40~13:15(給食時間と昼休み合わせて35分間)	
A 市中学校	全員・ランチボックス	12:45~13:10(25分間)	13:10~13:30(20分間)
B 市中学校	全員・食缶	12:35~13:05(30分間)	13:05~13:25(20分間)
C 市中学校	全員・食缶	12:40~13:10(30分間)	清掃後休憩
D 市中学校	全員・食缶	12:40~13:10(30分間)	13:10~13:25(15分間)
本市 小学校	全員・食缶	12:20~13:00(40分間)	13:00~13:20(20分間)

※校時は、学校毎に定めているため、表に記載の時間は一例です。

【枚方市の中学校の状況】

- ・ 給食時間と昼休憩(昼休み)を合わせて35~40分間となっている場合が多い。
- ・ ある学校では、12:35~12:50は必ず着席して給食もしくは弁当を食べよう呼び掛けている中学校もある。

【他市の中学校の状況】

- ・ 給食時間は、25~30分間が多く見られる。
- ・ 清掃後に休憩時間をとっているC市以外は、給食時間と昼休みを合わせて45~50分間となっている場合が多い。
- ・ (聞き取った情報)中学生は、配膳が比較的スムーズに進められ、準備や片付けに要する時間が短い。

【参考:枚方市の小学校】

- ・ 給食時間は40~45分間、昼休みは20分間となっている場合が多い。

中学校給食全員給食実施市の校時表(時間割) 一例

E 市中学校(食缶方式)		F 市中学校(食缶方式)		G 市中学校(食缶方式)		H 市中学校(食缶+ランチボックス)	
予鈴	8:25	教室出欠確認	8:35	職員朝礼	8:25 - 8:35	職員朝礼	8:15 -
朝の読書	8:35 - 8:40	朝の読書	8:35 - 8:45	朝の学活	8:35 - 8:45	朝の読書・学習	8:25 - 8:35
朝の学活	8:40 - 8:45	朝の学活	8:45 - 8:55	1 時限	8:55 - 9:45	朝の学活	8:35 - 8:40
1 時限	8:50 - 9:40	1 時限	8:55 - 9:45	2 時限	9:55 - 10:45	1 時限	8:45 - 9:35
2 時限	9:50 - 10:40	2 時限	9:55 - 10:45	3 時限	10:55 - 11:45	2 時限	9:45 - 10:35
3 時限	10:50 - 11:40	3 時限	10:55 - 11:45	4 時限	11:55 - 12:45	3 時限	10:45 - 11:35
4 時限	11:50 - 12:40	4 時限	11:55 - 12:45	給食	12:45 - 13:15	4 時限	11:45 - 12:35
給食・休憩	12:40 - 13:30	給食	12:45 - 13:15	予鈴	13:35	給食	12:35 - 13:00
予鈴	13:30	片付け開始	13:25 -	5 時限	13:40 - 14:30	昼休憩	13:00 - 13:20
5 時限	13:35 - 14:25	昼休憩	13:15 - 13:40	6 時限	14:40 - 15:30	予鈴	13:20
6 時限	14:35 - 15:25	5 時限	13:45 - 14:35	清掃	15:35 - 15:45	5 時限	13:25 - 14:15
終礼・清掃	15:25 - 15:40	6 時限	14:45 - 15:35	終礼	15:45 - 15:55	6 時限	14:25 - 15:15
下校時間	17:00	清掃	15:35 - 15:50			清掃	15:15 - 15:30
		終礼	-16:00			終学活	15:30 - 15:35

大阪府内の中学校給食実施状況

43市町村のうち全員給食は33市町村(76.7%)・選択制給食は10市(23.3%)
選択制給食10市のうち4市が全員給食への移行を決定

「中学校給食導入促進事業の進捗状況について」大阪府教育庁(令和2年10月末現在)に、聞き取り調査(R3・4年度)を加えたもの

		センター方式	民間調理場 活用方式	自校調理 方式	親子調理 方式	
全員給食	食缶	池田市	松原市	大阪市		
		四條畷市	泉大津市	高槻市※2		
		交野市	東大阪市	島本町		
		柏原市		箕面市		
		藤井寺市		門真市		
		大阪狭山市		和泉市		
		太子町		高石市		
		河南町		能勢町		
		千早赤阪村	堺市・茨木市・摂津市いずれも 選択制・ランチボックス方式か らの移行	忠岡町		
		岸和田市		熊取町		
		泉佐野市		田尻町※2		
		堺市(R7~)※3		岬町		
		茨木市(R7~)				
	摂津市(時期未定)					
	併用			豊中市<食缶方式+小おかずはラン チボックス>		
				大東市<ランチボックス方式+食缶>	選択制・ランチボックス 方式からの移行	
				泉南市<ランチボックス方式+食缶>		
				八尾市(R5.9~)<ランチボックス方 式+汁物・冷菜は食缶>		
	ランチボックス			豊能町		
				寝屋川市 ⇒センター+親子方式・食缶方式へ移行 (時期未定)		
			貝塚市			
			阪南市			
選択制給食	ランチボックス	枚方市	吹田市 ⇒全員給食検討中			
		河内長野市 ⇒全員給食検討中	羽曳野市			
	食缶※1		守口市	富田林市		

※1 カフェテリア方式(配膳員が盛付けて生徒に提供)

※2 給食費無償化実施

※3 堺市(生徒数:20,583人)は枚方市と同じ保温ランチボックス方式から食缶方式・全員給食へ移行